



PROJECT
THE SOUL OF CHOGOKIN II

第二次 超合金魂計劃



1997»1998

1997年の平成9年

◆情報・アニメーション書籍

「電脳戦隊バクレンジャー」
「ビーロボカブタック」
「ウルトラマンダイナ」
「勇者王オガガイ」
「ビーストウォーズ」
「ポケットモンスター」

◆映画

「もののけ姫」
「タイタニック」
「新世紀エヴァンゲリオン」
「モル2 海底の大決戦」
◆ヒット商品

たまごっち、ポケットモンスター、
ハローキティ
◆ホビー業界

スポーツ・フィギュアヒット

フィギュア工芸

セガ・バンダイの合併が白紙撤回

1998年の平成10年

◆情報・アニメーション書籍

「電脳戦隊キンガマン」
「テッパン探偵ロボタック」
「ウルトラマンヒーロー」
「ビーストウォーズII」
「きじゅう丸」
「カリボーベビーバン」

◆映画

「魔晄大魔宮THE MOVIE」
「コンフィニア」
「モンティ・イングライム」
「魔術姫魔力ナナコ」
◆ヒット商品

iMac、Windows98、ポストペイント
◆ホビー業界

PGガレージ模型

電車模型、マガジン創刊

ハズブロ・ジャパン・社富木氏により解散

「G.I.JOE」シリーズスタート

第一

次超合金魂計画

»プロローグ

超合金魂の世界

1997年12月、

超合金魂第一号「マジンガーZ」発売。

そこから本書で紹介するニューアイテム

(14ページより紹介)に至るまでの流れを、
発売当時の出来事とともに見てゆきたい。

なお、本項掲載のアイテムは

すべて实物大にて掲載した。

その商品サイズおよびボリュームの変化も、
また一つの歴史と感ずるからである。

GX-01
マジンガー

超合金の歴史について三キセイの
ルカ・カイツブラーによる、マジンガ
ーの歴史を振り返る。エントラーリー、
ロボットマン、アクションの歴史、
シャットスクランバーの歴史、
さらにはマジンガードラゴンの歴史



GX-02

グレートマジンガー

グレートマジンガーは本著では第3弾として予
められていたが、コレクターVの商品が遅れたた
めに発売が遅れ上がってヒット商品となる。TV
の放送開始、超合金魂マジンガーゼミグレートア
ップしたアイテムとなり、コレクターダンディは
歓喜の声が上がっている。(1998年11月販売)

1999年 平成11年

***特撮・アニメーション番組「仮面超人ゴーカーファイブ」「幽☆A!ロボコン」「ビーストウォーズオオ」「ソウル」「アンモニアドベンチャー」「ONE PIECE」「ルシタニア物語」「ゴジラ2000ガーディアム」「マリリックス」「怪盗戦士」「メタロボット」「ロボット警部」「ゴジラ2000ガーディアム」
***映画「マリリックス」「怪盗戦士」「メタロボット」「ロボット警部」「ゴジラ2000ガーディアム」
***ヒット商品 AIOの「ファイバーデン」
***ホビー業界 ラコエッグ発売開始、ペンシラーラのスター・ウォーズホルミック大ヒット
[MOBILE SUIT IN ACTION!] シリーズスタート

2000年 平成12年

***特撮・アニメーション番組「木曜版タクミレンジャー」「仮面ライダーゴウ」「トランスピード カーロボット」「Ζ GUNDAM」「ヒットコハク太郎」「ロクシメガロス」の放送作成
***ヒット商品 ブレイブセイエンス DVDプレイヤー、ブーツ
***ホビー業界 ハンディガチャポンEDP0000新登場



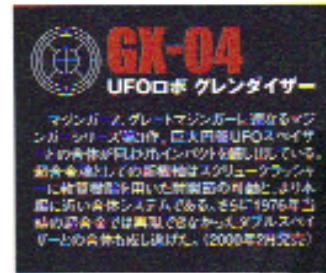
GX-01X マシンガーダイナミック

主に脚部全タイプのマシンガーダイナミックフィギュアが格納庫から上れる玩具として企画されてもいたが、融合合体マシンガーダの専用格納庫として生まれ変わった。お世話として強化型ロケットパンチが付属する。グレートマシンガー、グレンタイマーにも使用できる。(2000年4月発売)



UFOロボ グレンタイザー

映像通りの丸フーリングと形状を再現。また、形状保持のため、各部にグレンタイザーの頭部を施設する。オリジナルの脚部は、頭部に接続する。



GX-04 UFOロボ グレンタイザー

マシンガーダイナミック、グレートマシンガーダイナミック、ロボコン、UFOロボグレンタイザーの各機体が同じローバー化アームを装備している。新幹線としての新幹線はスクリュークラッシャーに新幹線を用いた特徴的な武器と、より本格的に新しい音色システムである。それが1976年当時の新幹線では実現できなかったアルスマーベーとの差別化を達成した。(2000年2月発売)



1999»2001



ダブルスペイザー (GX-04)

ボディのほとんどはダイキャストで作られており、いいわぬさビニカ仕様で高級化された。頭貫と翼の可動性が抜群で、両翼にはダブルカットを搭載している。



GX-05

大空魔帝ガイギング

技術面は大変な1ボット、大空魔帝に由来を取った西博一から、1976年当時の商品では尚立できなかった、手首バー(吹き出し)と脚部底部形状への変化などを実現。付属のガイギングLR05よりも小さめな、合体モックはちとより、開脚可能で合体型への要望が發揮されている。なお、2004年3月に甘利京子監修の、更にスペイザーシリーズ(GX-05R)が発売され、GX-04L代替となる形で行われている。(2001年4月発表)

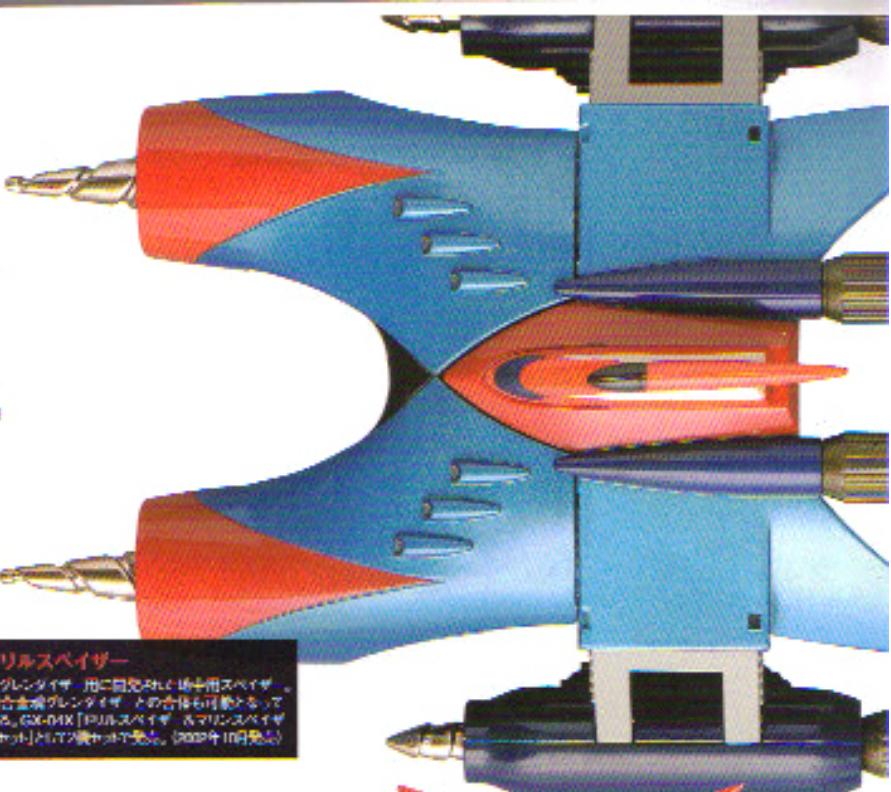
GX-03

超電磁ロボコン・バトラーV

誕生。デザインコンセプトとともに日本の合体ロボットの基礎を生み出したオマッケーである。超電磁機初の合体ロボットである本商品は、1976年当時の商品では有りにやうらしかったアニメーション基礎の合体とスタイルを実現。2005年現在も人気沸騰が行われており、現在では最も高い人気を誇っている(1989年5月発売)

2001年10月度15号

●特集・アニメーション番組「宇宙戦隊ガレンジャー」「仮面ライダーアギト」「ウルトラマンコスモス」「宇宙戦隊機甲アーヴィンダイバー」「スクライフ」「シャーマンキング」
●映画「千と千尋の神隠し」「ハリー・ポッターと賢者の石」
●ヒット商品としてハム太郎、e-Ham、ペイブレード
●ホビーフェア ガンダムフェア 開幕入場式。1m47cmのハイパー・ハイブリッドモデルが見事
「GUNDAM FOR FIGURATION」シリーズスタート



GX-07

マジンガーZ(OVA版)

オリジナル・ビデオ・カーネーション「マジンガーZ」に登場するマジンガーゾーGX-01の大艦アーリーリーンの再現。ベースデザインは「西田タクシージャンノリ」で、新開発の腰作・腕作・頭部・脚部・足首など多くのバージョンが実現された。(2001年12月発売)

トリルスパイザー

グレンタイマーと同じ回路板を搭載したスパイザーロボ。全機アーリーダイナーとの合体も可能となっている。GX-04X「トリルスパイザ」と「マリンスパイザ」セットとLT-2が発売予定。(2002年1月発売)



ゲッター2

■大型ドリルは青
変形されるクロームメ
タリで作成。ゲッタ
ーハンドも可動する。

ゲッター1

ゲッタービーム
发射ロボ開閉。ゲ
ッターウイングは取
り外しが可能。

ゲッター3

■頭はゲッター1と
ゲッター2に分離して
セットするという事が
な在したという。キャ
タピラゴム製。

GX-06

ゲッターロボ3体セット

ゲッター1、ゲッター2、ゲッター3の3体セット
で発売。各機システムは再現されている
が、TV本編の合体シーケンスを再現す
るため、イブニングバージョンが採用する。
また、脚部や腰部に共通シャーシが存在し、
かつてのシャンドマシンガーめぐみ機の替
えとなる可動性がある。(2001年11月発売)

2002年 令和版14年

…特機・アニメーション社「忍戦隊忍忍ジャー」「仮面ライダー龍騎」「機動戦士ガンダムSEED」「爆闘電音ダイナマッタ」「スカイハイ」「シャーマンキング」「魔界の魔族」「ゴジラ×メガコロナ」
…特機「ハリー・ポッターと秘密の部屋」「スター・ウォーズ エピソード1」「スパイダーマン」「魔の魔族」「ゴジラ×メガコロナ」
…ヒット商品 びっくり大作「アンパンマン」、スマートテレビ、ぬいぐるみ大賞
…ホビーフェア フルクマ再び注目度が高まる傾向、チャコエッグとチャコロに分裂

マリンスペイサー

水中用スペイサーを商品化。組合せ後がロングパンで展開するが特徴的な豪華品である。ドリームスペイサーとのセットGX-08S「中間の王者セット」(2002年10月発売)も発売され、GX-04Sとのフルセット販売も行われた。



GX-12 ビューナス

「グレートマンジャー」のパート一ノオト。元々は原作版「マジンガーZ」に登場したモックターであった。ビューナススクワード・ビューナスの変形を再現。フィンガーコサイルの装備ベースを採用した手もセミ可動されている。(2002年6月発売)



GX-11 ダイアナンA

アプロダイアが改造されたあと、新たに仲間入りしたパートナーロボット。腰部分の人形キャラクターモチーフの首筋、ダイアナンミラー・シリアル登録ギフト賞用としている。また、カーリング用TV面に登場。(2002年2月発売)



GX-09 ミネルバIX

「マジンガーZ」がTV版に登場。マジンガーブローバーのロボットとして登場したロボットである。TVへの登場は「AIAIのリスト・オッカクター」だが、その机制体から構成している。また、カーリング用TV面に登場。(2002年2月発売)



GX-10 ボスボロット

「マジンガーZ」「グレートマジンガー」マコメテ・リーナーとして活動した多色ロボットも組合せ発売。腰部分はマガキッドで腰部分、筋力を活用して様々な角度に動かすことが可能。脚はカッターシリーズの代表機械脚になっており、フレキシブルな可動性を実現している。(2002年3月発売)



GX-08 アフロタイア

「マジンガーZ」に登場した、女性パートナーロボットを同様可動仕様のダイオラマフィギュアとして商品化。専用用意された脚部のローリング機能を実現している。おまけとして豪華特典豪華なサイルを付属。(2002年1月発売)

GX-13 超獸機神ダンクーガ

コンバット・VIIはネオガルの合体ロボット。前回機イグルファイター、ビッグヒス、マンドマイヤー、マンドヤーが合体する。これまでの前作機種を大きく洗脳した合体仕様で、機動のスタイルも想起されダンクーガの立派さに驚かされた。また、このライズは、イグルファイターが变形可能で、最もギリギリの大きさから変形されるのである。トイライズ、開拓までのライズがコンバット・VII入るが、いかにも普ふうだらうが。(2002年2月発売)

GX-01R マジンガーZ (リニューアルバージョン)

10万個以上を販売したGX-01の全般を行
きにともない変更された。ほとんどバージ
新規で、シャトルランダードやルバーハイグ
も新たに作られたものである。GX-02ブレ
マジンガーノボ・チヌア・ワゴン・シャトルライ
ダードも付属する。また、全員も伸び、ノーブ
ロードのバランスを崩していない。(2002年10月)



2002»2003

2003年(平成15年)

- ◆特機・アニメーション番組「爆電戦隊アリバランジャー」「仮面ライダー555(ノイハイ)」「美少女戦士セーラームーン」「出雲!マシンロボレスキュー」「轟星神ゲンシャイザー」「トランスピーマー・マイクロソーラー」「機の怪全解説」
◆映画「誘惑人強盗團 THE MOVIE」、「スタークター8」「忍者アンダルシアの島」「ヒラックスモスクワ×メカゴンワ 対決BOB」
◆セッティ商品 GIGA、薄型液晶テレビ、キャビンパッド
◆ホビー・書籍 ガンダムSEED商品大ヒット。その人気はプラモデル以外の商品にも波及した。スポーツの輸入メーカー・レスが創設する「駿馬土都衣神社」シリーズスタート



GX-19
ゲッターライガー

スリムなフサード・ブルゴード・ショーンの背景に気が配られている。両手の変化を行った腕のモーター機能が面白い。(2003年12月発売)



GX-20
ゲッターホセイドン

マシンゾウホセイドンのペタイルク、ふんだんに用いられたダイヤモンド・バーフに多くの真似。頭部の変形はコンバーチブルだ。(2003年12月発売)



GX-18
ゲッタードラゴン

GX-06の頭部・ヒート・モードを踏襲して、頭ゲッタードラゴンも必要されている。ドラインに付けるタイプのスマート・モードを再現するためのオプションパーツが付属した。(2003年11月発売)



GX-02R
グレートマジンガー
(リニューアルバージョン)

グレートマジンガーオリジナルが行われた。こちらはベースの完成度が高めで、こもって、オーバーの仕じにはオブシッパンバーツの頭部に力が入れられている。首が後ろに大きくスイングしたり、腕部に平衡感覚装置のスクランブル・タップルモード機能など、ディテールを重視した改修が施された。(2002年11月)



2003»2004

2004年(平成16年)

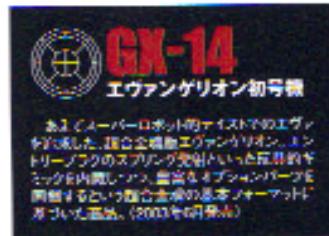
○特撮・アニメーション登場「初音ミクガルンジャー」「仮面ライダーブレイド」「ウルトラマンタガス」「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」

○幻獣・怪獣「幻獣ゼウスティライザー」「トランسفォーマースーパーリンク」

○特撮「ハカルの巣く城」「ラストリムライ」「ファインディング・ニセ」「ゴジラ・マイナルクイズ」「ULTRAMAN」

○ヒット商品「Pod mini」、「イシライド」等

○セガトイザム「セガトイザムEXPO 2004開催」「仮面ライダーシリーズ再スタート」



GX-23

無敵超人ザンボット3

合体ロボット第3弾は完全すべきマイニーズ初のオリジナル作品からのラインナップ。1977年当時の超人では不可欠だった、ザンボット3号の頭部装飾を廃し新たに強烈の印象となった。戸入奈イオウ役や青柳正義役など、オブショーンバーナーも監修を含めたロボットファン必携の逸品である。零售は、頭と脚にドローストaps付属のマットバージョンを複数付いた状態。(2004年5月発売)

GX-22

エヴァンゲリオン
四号機

TVシリーズで登場のみが出来ていた四号機。ソルジャーのライドクロス・メカを用いて再現。(2004年3月発売)

GX-21

エヴァンゲリオン
参号機

TVで強烈な印象を残した参号機を完結。当初に廃されたエンタリーブラック付き。(2004年3月発売)

GX-23A ザンボース

文部・古本を前後としたしなやかな表現用の新規開拓を実現した、ザンボット3号「A」といふべき存在。しかも、TV本編に登場するザンボマグナムのA、B、C、全てをキャストしているのが驚きであった。(万代のアイテムコレクション「新幹線模型用」用の頭と脚をハサウーン)



PX-01X

ホーバーバイラー専用
マジンガーヘッド

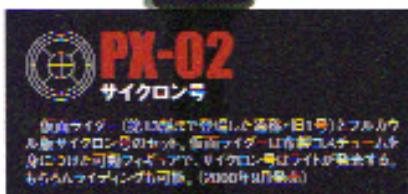
PX-01ホーバーバイラー専用ドライビング用能な
マジンガーヘッドの頭部モード。ソフトドドード装。
ライダーラックを内蔵し、ライダーボンのアクシ
ユに接続して専用が出来る。(2000年11月発売)



BPK-01

宇田城ゼヤム

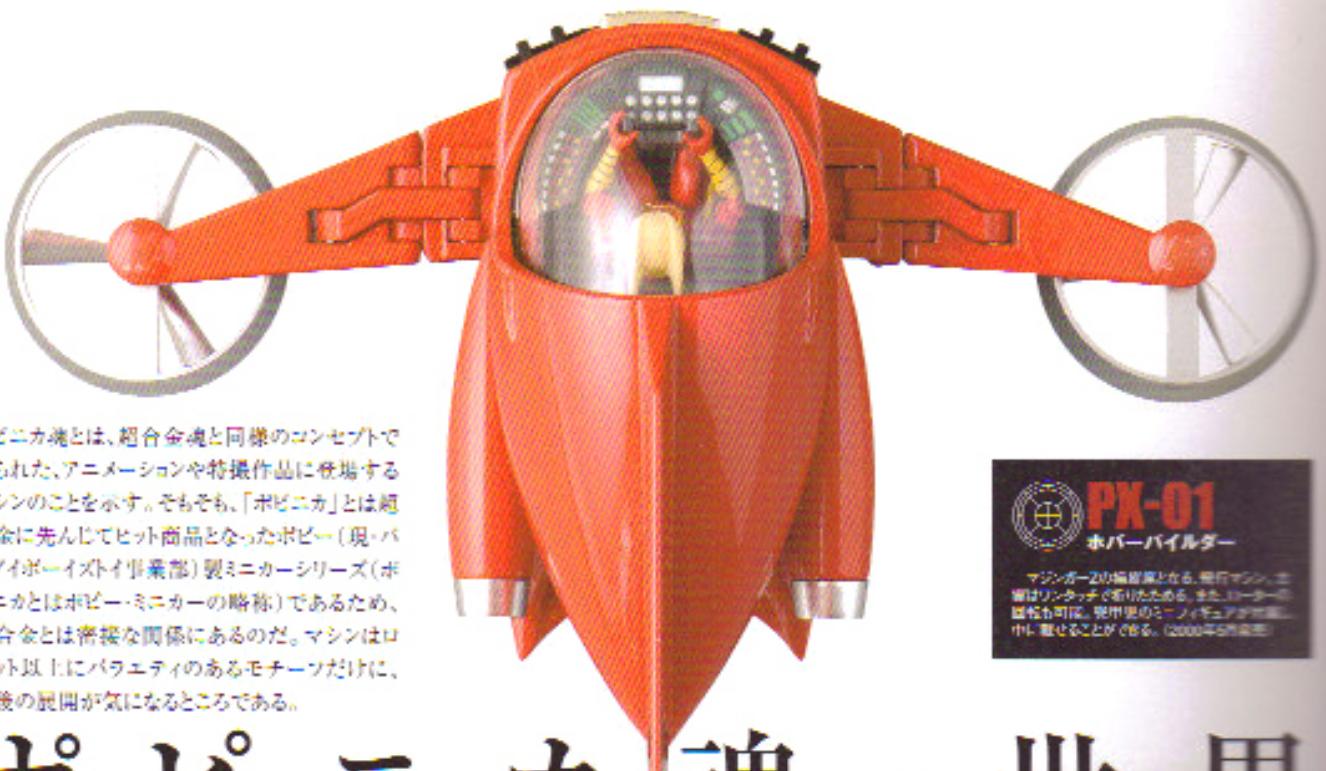
「ビッグスケールホーバーバイラー」として商品化。こ
の頭の頭の頭人型ライズ、内部人が実現する
のみならず、コット＆ライドボックスが内蔵して
いる。また、コスモクリーナーの頭みまでモ
デルが付属。(2001年4月発売)



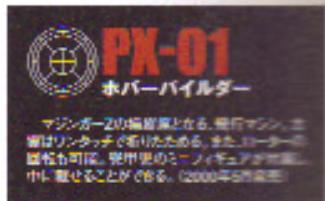
PX-02

サイクロン号

仮面ライダー(第2期版)で登場した満路(日1号)とフルカラ
ル版サイクロンのセリフ。仮面ライダー日本製スチールト
イにつけた可動フィギュアア、サイクロン号はライトが点滅する。
もちろんマイピーリングも可能。(2000年9月発売)



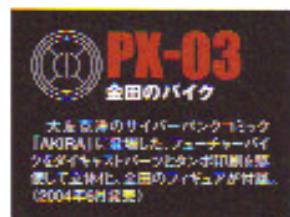
ポビニカ魂とは、超合金と同様のコンセプトで作られた、アニメーションや特撮作品に登場するマシンのことを示す。そもそも、「ポビニカ」とは超合金に先んじてヒット商品となったボビー（現・バンダイボーアイズトイ事業部）製ミニカーシリーズ（ポビニカとはボビー・ミニカーの略称）であるため、超合金とは密接な関係にあるのだ。マシンはロボット以上にパラエティのあるモチーフだけに、今後の展開が気になるところである。



ホバーバイラー

マシンガードの機能車となる、飛行マシン。主翼はリンク式で動作させる。また、ローターの回転も可動。昇降翼のルーフィングが地面と一緒に離れることができる。（2000年5月発売）

ポビニカ魂の世界



PX-03

金田のバイク

大友克洋のサイバーパンクコミック
「AKIRA」に登場した、フェーチャーバイ
クをダイキャストベースでタンボ印刷を施
して立体化。全曲のフィギュアが付属。
（2004年6月発売）



PROJECT OF

GX-36
I D E O N
伝説巨神イデオン

試作模型。イデオンの変形・合体に関しては元々かなりの矛盾が含まれているため、大胆な新解釈を廻所に採用。合体構造のバランスや各変形態を含めたトータルでの實現度は、完璧と言えよう。作画イメージの再現を目指して設計された、細部分の微妙なアールが美しい。



超合金魂 最新中国ラインナップ

超合金魂最新ラインナップを、ここで一挙紹介しよう。巨大合体アイテムや新カテゴリー「魂スペック」など、超合金魂の新たな躍動を感じさせる逸品の数々を、とくと御覧あれ。

伝説巨神イデオン

‘80年5月8日～81年1月30日・全39話。
及び劇場映画「伝説巨神イデオン 挑戦!! 発動吧!!」
(‘82年公開)

遠い未来、地球人はソロ星にて第6文明の魔物・イデオンを発見した。ときを同じくして、異星人バッファーランがソロ星に襲来。アオに導かれるように、2つの種族は敵友を交えてゆく……。「機動戦士ガンダム」の富野由悠季監督が手がけた壮大な宇宙軍事劇を、いまも最高傑作と称賛するファンも多い。

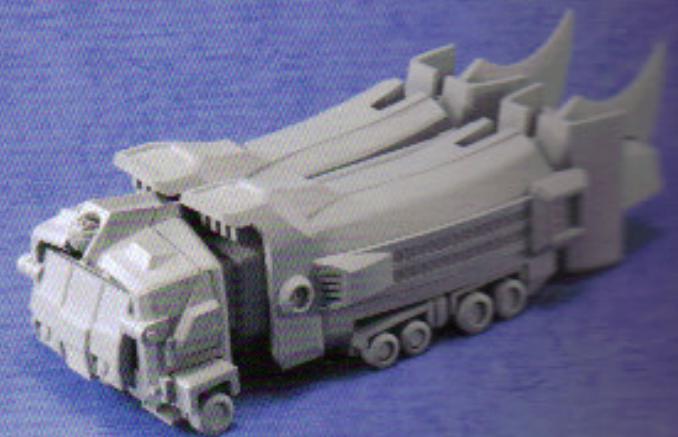
イデオンは、3種のメカがそれぞれバターンに変形し、さらには合体して巨大ロボットとなる。設定上、変形・合体時の矛盾が多く、いかに戯劇的前振りを行いギミックとプローショーンを両立させるかが開発の鍵となる。



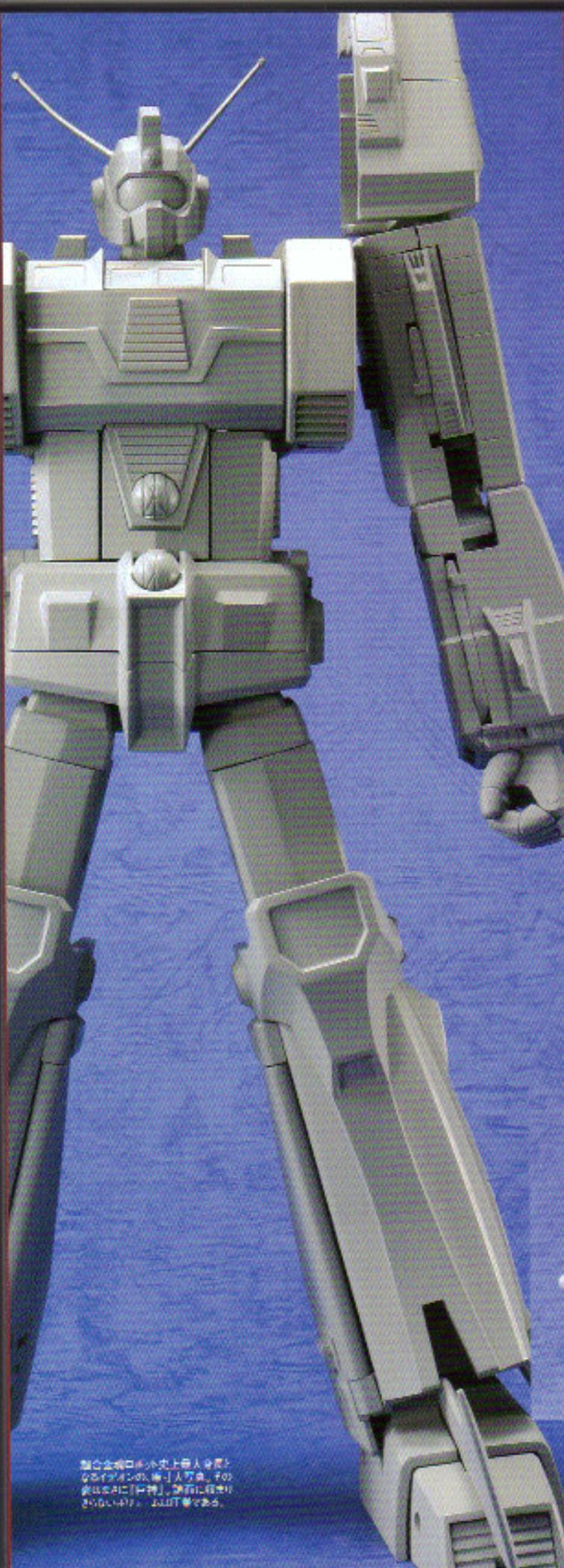
▲通常時は駆陣ヘリコプターのイデオン・ヘリ、その基本形态(爆撃型)がこのソルジャー型である。通常時はドライバーへの变形も可能。建設上、機器上面は専用部品によって差額が生ずるが、通常部品で構成される。ドライバー用のサイドハンドルは、全て回収部をアシナルで、よく轟石と相性のいいダメージを放す。



▲イデオンの駆陣部分となるローマ。基本形態はこのハーバーボートで、戦闘型イデオンのハーバーは通常形態と外観には異なり、バッファーランのスパイ兵器機械やヒンジによる回転モックなどヤクニアリのアーマー装飾も含めクリアなだけではない。



▲巨大な合体時、イデオンの腰元が頭部に変形する。専用は基本形態のソルジャー型から、車輪への変形も可能となる。表側から形態操作を行える機器部は、合体時に上半身を支え、腰元を保護。合体時の脚部でドアル形態を開くさせたフルルルも注目である。



聯合企画ロボット史上最大尺寸となるイデオンの、機動人形兵士の子の姿はまさに「巨神」。非常に重きがあるといつぱり、1台山車等である。

PROJECT OF

GX-35

WALKER GALLIAR
ウォーカーギャリア

着色を施した成形試作(実際の商品とは一部配色が異なる)。サブグルと同様に2機のマシンが変形・合体して完成するウォーカーギャリアだが、そのプロセスはいたってシンプル。ゆえに組合完成では合体時のバランスや分離形態のフィルムの美しさに効力が割かれており、各形態のプロポーションは極限レベルまで高められている。



本専用のバスター砲を構えた姿。脚は2千両面になってしまい、頭中両脚間に上にDCGが可能。



背面、側面のイメージ
を鏡写し、キャラクターバー
のロゴマークは記念
のため削除されています。



▲シンプルかつ無骨な體格のブ
ラボーシュート(完全再現)。スク
ールはGX-28 級四角カーブングル
と同様、約1144となる。足首の
ローダクタイヤと、ワイルドなトレーデ
バターンにも注目。左右各腕の部
色塗装は、頭部に対するアンティが
本専用の状態となっている。

▲本専用の頭の5連ミリルア
ンチャトル付属。頭頂に装い肩
の上へマウントすることが出来ます。

戦闘メカ ザブングル

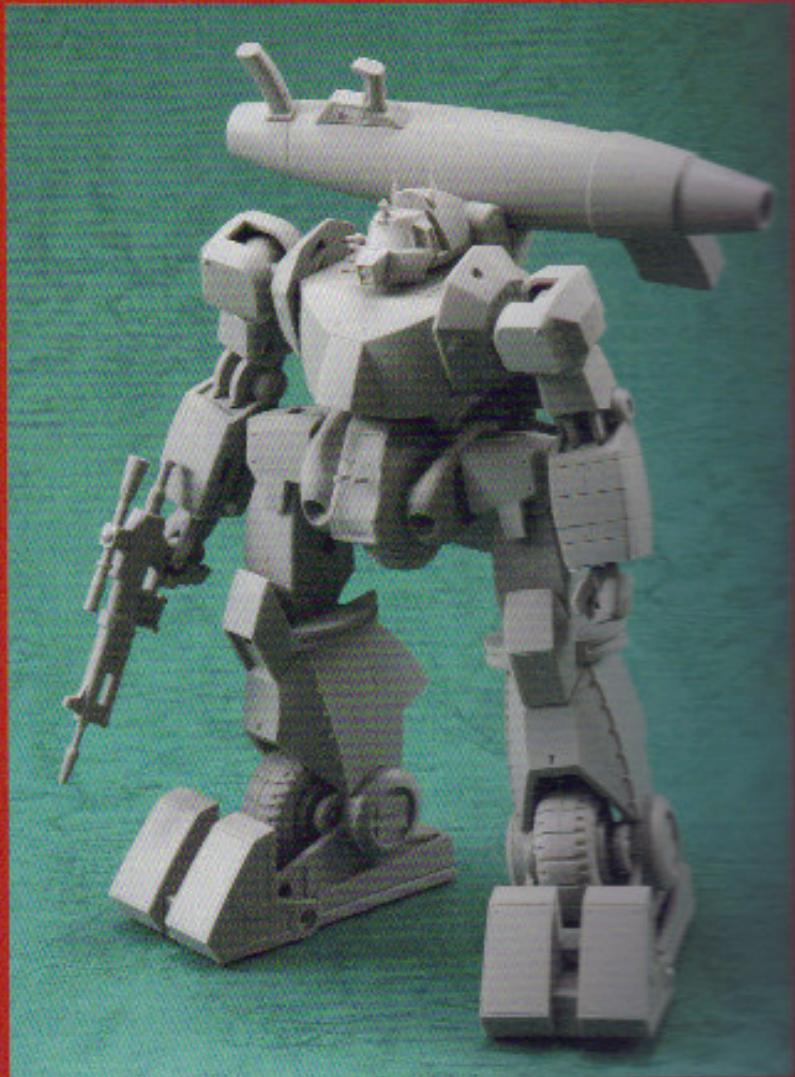
'82年2月6日～'83年1月29日・全50話。
及び劇場映画『ザブングルグランティア』(83年公開)

『戦闘メカ ザブングル』第25話にて初登場したウォーカー・ギヤリアは、ザブングルに代わり新たな上級機となるウォーカーマシンである。それだけに、

すでに「GX-08 戦闘メカ ザブングル」を入手しているファンにとっては、まさに待望のアイテムと言えるだろう。ザブングルと比べると変形・合体システムはシンプルだが、世界観とマッチしたワイルドなスタイリングがウォーカー・ギヤリアの魅力だ。余談だが、本作は、ロボットアニメ史上初めて「物語途中での生殺査交代」を実現した作品でもある。

▲右手に毒ガス弾を携え、首中にバズ・カ爆を装備するウォーカー・ギヤリアの赤いバズ・カ爆ロッド。基部のフックにマウントされる。

▼初期オーナーリングのリストを再現した。GX-28同様全種サメーラルとのショット、土蔵版の引摺合を再現付ける名シーンである。



▲左側点で照準している射撃武器各種。特に左上のブーメランタイプの二式で立体的に構築された、進歩的な武器だ。

▲新旧土蔵版のそろい踏み。スマートなザブングルに対して、無骨な田舎のウォーカー・ギヤリアは大柄に見える。

PROJECT OF

GX-35

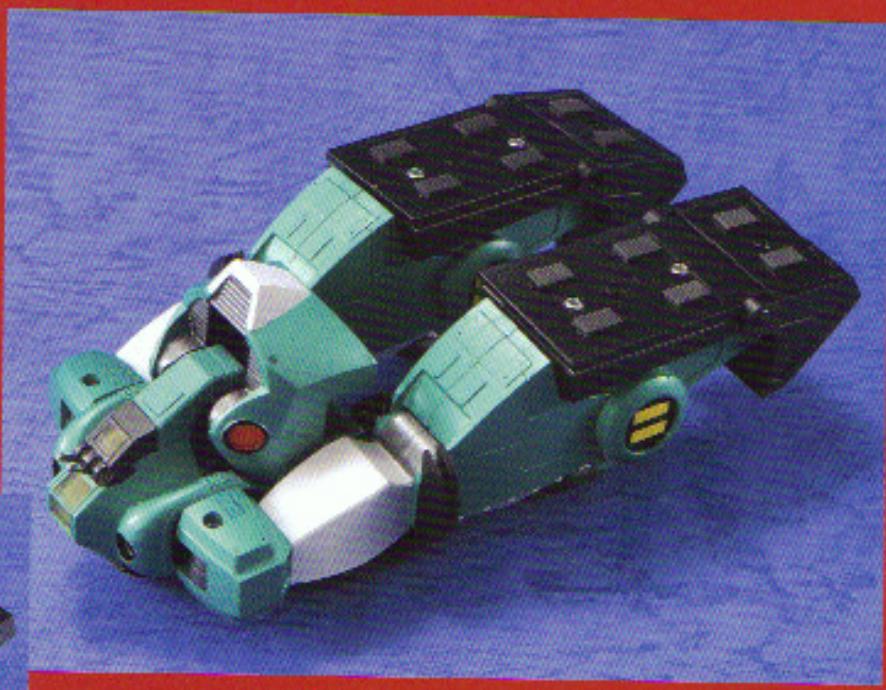
WALKER GALLIAR

ウォーカーギャリア



▶新色が施されたギャリア・ホバ
成形試作。ウォーカーギャリア
の全体と両腕が変形したマシン
である。前ページのモデルと異なり、
機体部アシナは未着装。頭部
下面には、他の立体化した部
機用コンピューター・モードが収納さ
れる予定となっている。バーナー
部の構造も可視。

▼後面、ローター部分が大型化
されたことによってギャリアが生み出し、
見とけのインパクトを強めている。
なお、ローターは当然可動可視。



▶ウォーカーギャリアの胴体及
び両手足が変形するギャリ
ア・ワイルド機体部上面(ウォー
カーギャリアの足の裏)は、前
中では武器などを搭載する際
の舟台としても機能される。

▼ギャリア・ワイルド機体、上面
を機動力フルにするため、足
部部分の開閉機構を走行上へ
すらしているのが特徴。太腿
とかかとの一体感が非常に、上部
の実用性(スライド)はば
優秀には目を訊ね付様。実は
これ、遊び感覚つきであります。



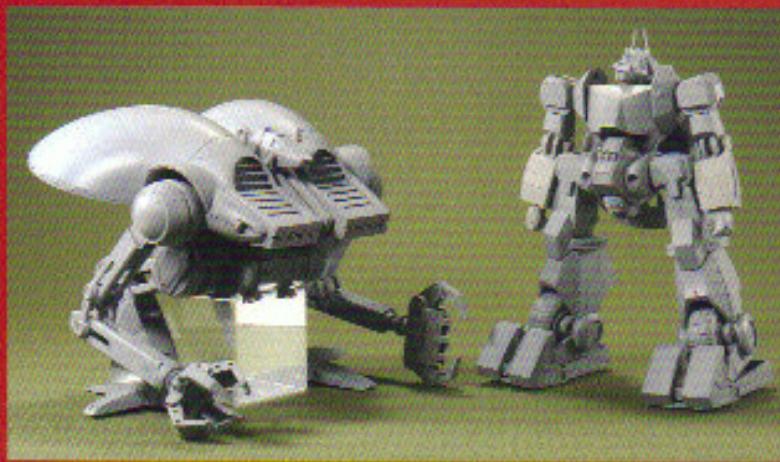
ドラン・タイプ

GX-28ザングルにはブラックカリの組みたてモデルが付属した。さて今回のウォーカーギャリアには、番組後半で活躍したウォーカーマシン・ドラン・タイプが「ブラックカリ」と同じ仕様で付属する。後半登場の機体ということもあり、ドラン・タイプも当時現役にはなっていない。ファンなら感涙石のオマケなのだ!



►ウォーカーマシンの概念から外れて、ルノーリング飛行を前提としたウォーカーマシン。表面の大きなヒートパイプ内にロコ・タック基板、即座回転飛行モードである。

▼頭部、コクピットガードアームによって地面まで突り出るという、独創的モーティブも完全再現!



▲背面、バランスを取る飛行装置を再現するため、専用スタンドの付属も決定! 審美意識高いオマケのオマケだ。

◀ウォーカーギャリアと同スケールであるため、かわいいオリューバがある。



GX-34 GUN BUSTER ガンバスター

ナックルアーム
頭部で光球
互換性シーンを
実現。



リアビュー。バスター・マン体のノットボーン・ショルダーパーツは外し式状態。



◀ ガンバスターの基本
カラーミックスである「駆け込み」。
その構造上、どうしても
ロボット玩具が手離す
とする体勢なのだが、
本企画はバスター・レ
ーダーのバトルモードア
ンド用脚が付属している。
左左腕では、プロポ
ーション・頭部の想定
脚部を装備している。

▶ 駆け込みパーツを付け
た状態。全高約140mmは
普通に楽しむぞ。この
状態からバスター・マン
シに完全変形してしま
うことが、何とも驚きだ。



トップをねらえ!

‘88年10月～’89年7月・OVA全8話

ガンバスターは、宇宙戦艦バスター・マシン1号と2号が合体して誕生する、超光速万能人型変形合体マシン兵器である。劇中の、ゲッターロボを彷彿とさせるモーフィング変形は、立体化で

さるとは夢にも思えなかつた。そもそもOVA（オリジナル・ビデオ・アニメーション）登場のロボットといふこともあり、デザイン・ギミック共に玩具化を想定したものではなかつた。本アイテムは、これまで培ってきた合体玩具のノウハウ、そして開発陣の「努力」と「根性」があつて初めて誕生した、奇跡の融合企画である。



▲右側のバスター・シールド。マント部に装備し、盾を張る。



プロポーションタイプ
のバスター・マチーナ
は、ショット・ハーツ
を用いた2本手ひと
づけ、輪郭明顯。



▲バスター・ルームラン出バットとバスター・マチーナ
の内蔵用の小サイズ版も付属する。



▼頭部で接続した公爵のダブルバ
スター・レーザー。頭部と脚部のバキル
を回す、機動範囲を広げる。バキル裏の
ダイアルや手足の内蔵構造にも注目！

►右側はオランダ
ルームラン用バット



▲バスター・ルームラン用バットとバスター・マチーナ
の内蔵用の小サイズ版も付属する。



◀頭部で接続
するダブルバ
スター・レーザー
のベース。頭部
の内蔵構造に注
目！



▲左肩の大盾件の回転。前手のシ
ャッター駆動センサ外観。その内側
には、内蔵用のバットとバスター・ト
マチーナを収納。



▼バスター・ミサイル用子臂。スマート
レバーに走りとリリース装置が左右に
配置。ミサイルの取り付けも簡便。



◀左肩の大盾
件の回転。前手
のシャッター駆
動センサ外観。
その内側には、
内蔵用のバット
とバスター・ト
マチーナを収納。

GX-34 GUN BUSTER ガンバスター

▲表面硬化型射撃用
ガントレバスター・マシン
等、形状优先のプロ
ポーション・バーチを付
けた状態。武器上、通常
お隕様式の宇宙機器
であるため、全体下部
に重装甲を持たない。

▲プロポーションバー
チ武装のローバスター・マ
シン2号。アラカルトモード
も装備式であるため各
種射撃可能。



▲側面の伸縮と共に、両脇が同時に動く。



▲上面を走るハンドルが折りたたまれる。



▲爆弾部分が分かれて前進となる。



▲両脇が分かれ、中央から前部が突出する。



▲腰を曲げることで、歩行もロボ
グリップも可能となる。



▲正面台座は、ガンバスターの腰にジ
ブ接続可能。ローバスターを腰に固定す
るスルコンとなる。



▲全体収納で持ちこ
とができる。大型の専用
ディスプレイ台座が付
属。RX-78を置ける。



▲お掃除のマシ
ーン式面倒くさ
い「ジギル」が付
属。頭部がマスク
モード可変ため、
面倒引手干
燥も可能。



▲腰の内蔵モーターが回転すれば、
車輪式。推進モードも可能。
クリエイツ・システム実現も可能。



▲腰の間にブ
レーク付きギヤ
タビラバーを
付けて、スル
ーナスマック
ク。各関節の
可動域も広く、
これ以上を過し
ていれば、駆動モ
ード、モード切
り替え機能によ
り、モード切
り替えが可能とな
った。



▲頭部を着ての写真
の前にアスター・サイド
用テープが付属する。

GX-34

完全变形ガンバスターを製作するにあたり、課題となつたのは手足の変形である。パーツの形状が変化するモーティング変形を、いかにして再現するか。前人未踏の変形ギミックを実現するために、見た目はシンプルなガンバスターの内部には、極めて複雑な機構が内蔵された。コンバターフォームへのオマージュとされる多形な武器も、見所である。



▲プロド・ショット・ドック搭載用の製作用脚。東西ヨリバスクマシン1号のウイングが見えます。

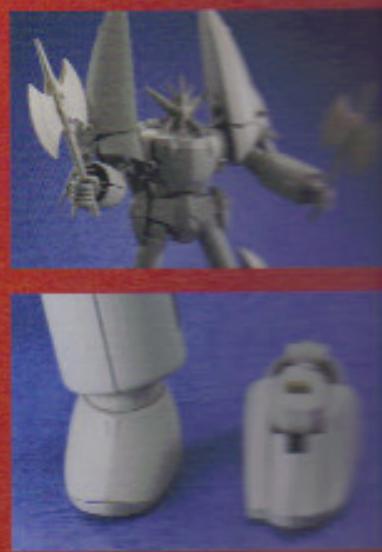


▲最右側部機械が空中する瞬間のひときわこの構造をわかります。ローパーツを操作する機能したグルが確認できます。首の揺るいは、バスター・マシン1号のエンジンノズルも見える。



▲手首に装着マシン兵器。各場面開拓に欠かせない小道具である。

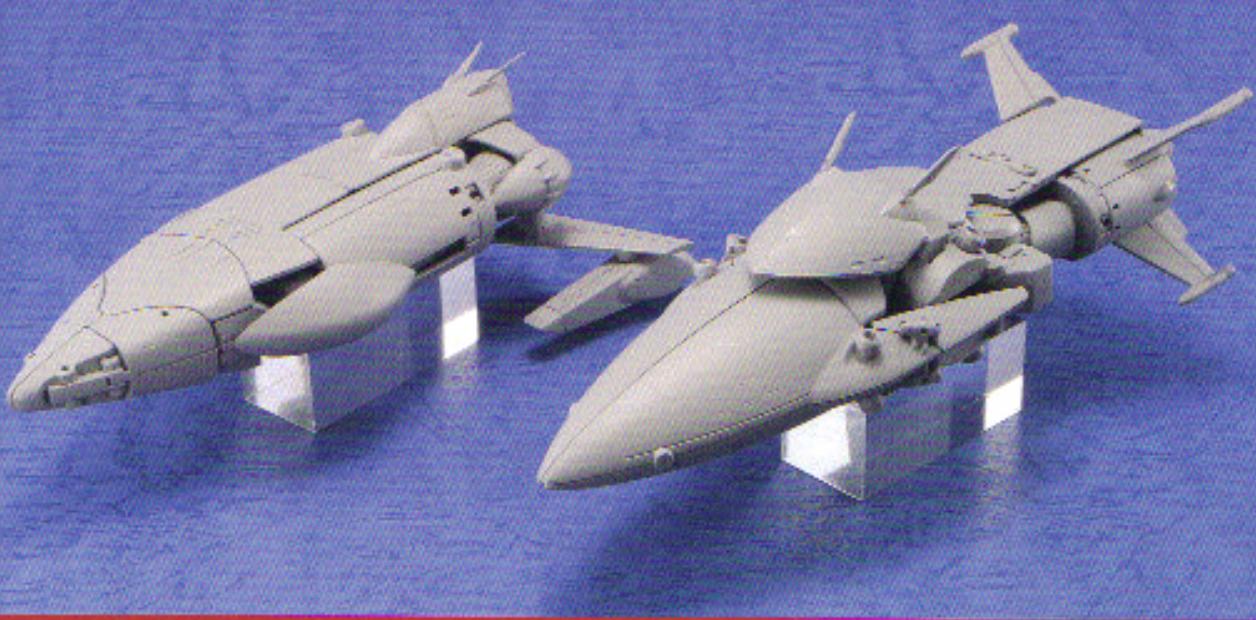
▲スーパーイノベマックスの真似アスト」とかくお仕込みしておいて頂けるように、可動アームを付けてお部屋も出来ました。その可動性は、通常形モードでのGX-144・ラングダロン装着組合せ可能という。



▲玩具的視野上より、脚部に装着可能なラングダロン装着組合せ可能(左)。

PROJECT OF

GX-34



▲バスター・マシン1号の
後部ベース。こちらはブ
ロボーショップにて付
けた状態。

▲バスター・マシン2号の
後部ベース。ジョイボーン
ユーパーツは少し下部の
形状を変化させる。

▲ここからは、分割基板によ
りガントラーの詳細な各部・
合体を覗見せしよう。まずは
分離状態のバスター・マシン1
号とバスター・マシン2号。すでに
プロポーションを外
した状態だが、おおむねフル
エントに近い寸法だ。



▲左側写真は、数台の3Dドライバを組み合わせて構成されたものである。

CADによる設計

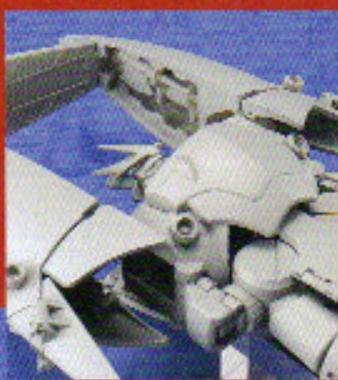
複雑な機構を有するガンバスターは、全てCAD(Computer Aided Design=コンピュータ支援による設計ツール)を用いて設計された。光造形により、フォルムや構造を確認するビット(プロト)を直で3D化力することも可能。トライ＆エラーの効率化、完成データの全型作成へのダイレクト使用による低コスト・納期短縮など、コンピューター上で作業するメリットは大きい。もちろんCADを用いても、複数かつ多用な変形機構を持つガンバスターやダンクーガクラスの大型合体ロボを設計できる“匠の技”を持った設計者は、ほんの一握りの貴重な存在となる。

▲バスター・マシン1号のシンプルカラー仕上げのような... ■レンダリング結果。ベース部等を施した状態。製品用の3D渲染も直原本を自在に作成できるのが、コレド。少しお高めである。





▶奥中の全体
パワーパンに余る
分、武器庫内を
のぞみ取る。



◀頭の背部が
頭の下を軸に
回転し、肩甲と首
が分かれ、頭頂が
立ち上がる。



▶バスター・コ
レクタ・バキルを
固定。車輪を外す
と、トランクが立
起だ。



◀▲バキルの吸納。頭
ブロックが開閉し、バキル
コレクタが頭体内部に引
き込まれる。



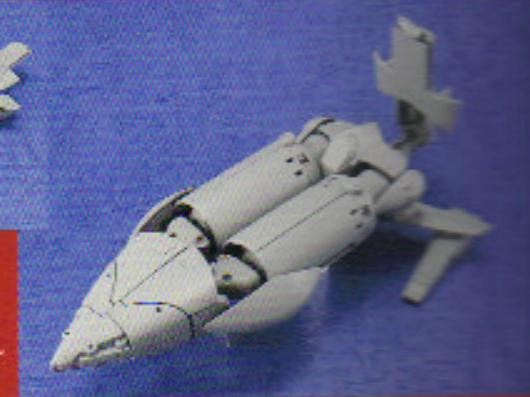
△裏返し、頭の上面を形成していたバキルに、エン
サウンドウイングが付いている。



△下身の正面。
車輪のバーフは
さくとバスター野
面に移動する。



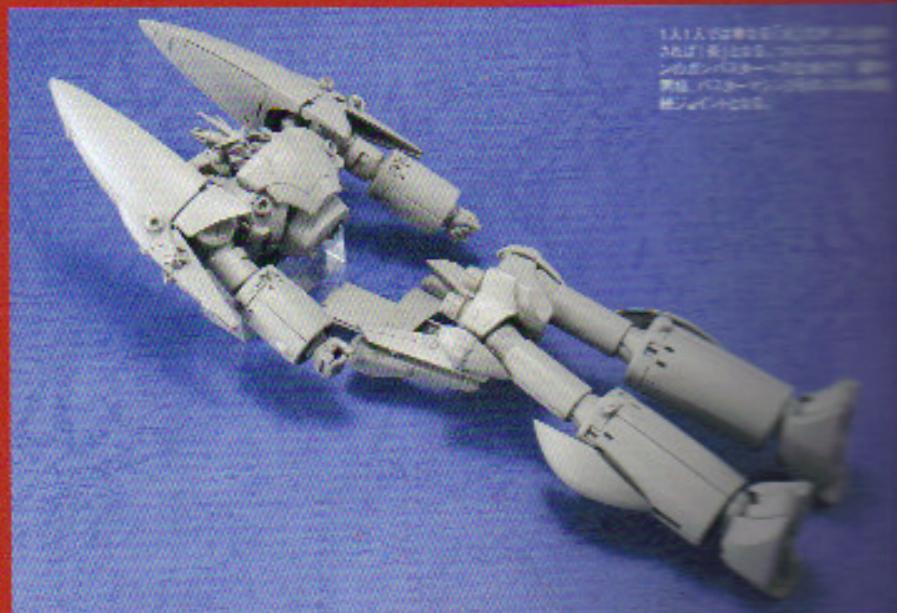
◀張り出る
頭部の突起。
この位置とBD
バーとの関連
を見比べながら
整備して欲しい。



△艦体上面のバトルを脱ぐことごとに、頭部が露出。



△最後に、複数のネジで留められていた4つのフノを差し替えてガンバスター
に完成する。



△一人一人では手を届かないところに、おさげ! 両ヒンジ部を、アームの接続部へ向けて開け、頭頂、バスター・ランプの位置に接続する。頭頂部は、ヒンジ部を閉じて固定する。

PROJECT OF

TAMASHII SPEC.

Evangelion 01 TEST TYPE

魂スペック 人造人間エヴァンゲリオン初号機

新規開拓される方
がボーズもこの
形、他の早い類
はあるが、又身
體並べて射イス
ウェル帆を実現
できる……。

頭部はプログレッ
クタイプを採用
でギミックタイプ
は廃止され、サイ
バードにスマイルレ
イジの三角頭部
頭部が本体間
接続は、完全
化。



▶腕部に上さ
る手への干渉は
考慮して抑えられ
ており、エヴァンゲ
リオン初号機はノ
ルアクションで可
能性。

▼マクロ・スク
スター・ミットーナ
ードを抜刀。把手
左肩の角部には
ロボット。



▼背中の外部電線
用ソケットには、アシ
ビスホルダブルを搭
載。コニカルの造り
が目が離せない。



エヴァンゲリオンの解
説書に打ち込まれる
コトリー・ブラン・エヴァ
ンゲリオン・ビットである
。人間型の姿勢は、一
歩前に引き出した足
をスライドする。



▲魂スペック「人造人間エヴァン
ゲリオン初号機」初の面倒、エヴァ
ンゲリオンのアシス・エリザベス
外装が外れるにもかかわらず、スリ
ムなプロポーションを実現している
ことに拘泥する。

◀頭の拘束具は頭部、脚部のコ
アは別バージョンにより実現。いかで
もエヴァ初登場時よりインチキエ
ヴァンが出現できる。他のティテ
ールも新古堂模型より実現してい
るんだ。

新世紀エヴァンゲリオン

95年10月4日～96年3月27日・全28話、及び劇場版四作

新カナ「アーティ」魂スベック」第1弾に選ばれた
素材は、新作劇場版の公開を控えた「新世紀エ
ヴァンゲリオン」より「人造人間エヴァンゲリオン
初号機」。すでに組合金属での立体化もなさ

れているが、組合金属版が「ロボットとしてのエ
ネルギー」をコンセプトとしていたのに対し、魂スベ
ックでは「拘束具を取り付けられた人造人間」を
コンセプトとして、内部人造人間から可動モデルと
して再現。より、設定に即した立体化を目指して
いる。そのため、組合金属だけでなく「着脱自在」(聖
騎士型衣神話)のノウハウも取り入れられている。

魂スベックとは?

組合金属の技術を受け
継いだ新シリーズ「魂スベ
ック」。同シリーズでは特に
「組合金属」フレームで
は再現が困難な、80年代
以降のキャラクターが主に
商品化対象になっている。

PHASE|00

「拘束具をまとった巨人」を再現する
ために、「聖騎士聖衣神話」などで培
った技術を応用。広い可動域を持つ
フィギュアと、シャープなフォルムの拘
束具が生み出された。

▼製作過程、人間のプロポーション
を基に外れていながらも体形が、エ
ネルギーの輪郭である、聖体の形状の
延長に沿って骨格化されている。



▲生物的なエ
ヴァンゲリオン
初号機の基礎。
頭部における
聖体出現シ
ンクトラウマを
覚えた複数名
も似てだろう。



▶聖体の胸
に露出するコ
ントラスト鮮
やか。(実物)

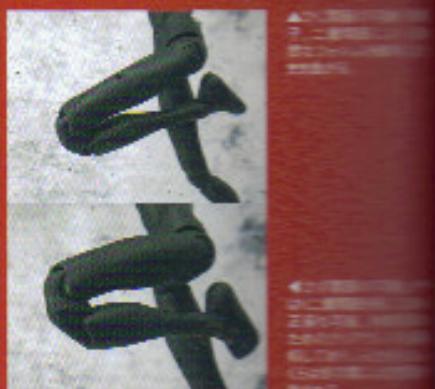
▼聖体表面に、多少次江一切露出しない。
「聖騎士聖衣神話」の聖体完全における
ノウハウのフィードバックであろう。



▲聖バーンは脚部に集中し、膝周辺に青神体筋、
筋の曲げ具合によって表情が变化する。



▲身体の可動範囲の広さも、聖騎士である耳目。
アクションノイズヨンとしても高いクオリティを誇つ
ことが伝わってくる。



拘束具の外見、たとえば、その「内面」は機械的、立体的で、これが特徴となる。エヌエスベックの「聖
騎士聖衣神話」のノウハウが活かされたアイテムといえる。

PROJECT OF

TAMASHII SPEC. S P T L A Y Z N E R

魂スペック SPTレイズナー



▲アビューワーク上、SPTのバックパックは内在に機動用電池となっている。SPTがシリーズ初となるには、結構外側のバックパックを複数装備したあたり。



▲製作現場のモデル。大刀原
純剛による監修により、より
ドット化を意識する。

▲アビューワーク左腕に搭載
用のライターを取り付けたハッ
チが取り外されているのが判る。

魂スペック版レイズナーに必要となる
要素は、アクションフィギュアとしての可
動、玩具としてのギミック、組合せとし
ての重量感。そして何より、組合せ端
GX-28戦闘メカザブングルにおいても
追求された、リアルアギットに相応しい
ブケモアルに負けぬシャープなディテー
ルとプロポーションである。器があって
こそ「魂」が宿る。まずはレイズナーの
形を極めることから、開発は始まる。

蒼き流星SPTレイズナー

86年10月31日～86年8月26日・全38話、及びOVA3本

新カテゴリー「魂スペック」の第2弾として選ばれたのは、「蒼き流星SPTレイズナー」の生後機SPTレイズナー。頭部の大半がキャノピーに覆われた特徴あるデザインを立体化するにあ

たり、そこにいかなる「魂」が込められるのである。最大の特徴である「強化版レイズナー」への換装を始めとして、V-MAX後の各部がバージョンなど、ギミックもふんだんに盛り込まれてゆく。試作写真と両面を交えつつ、一足早くその完成形に想いを馳せてみよう。

PHASE|00

航空機的イメージのロボットといふコンセプトを持つレイズナーは、頭部をキャノピーが覆い、その容積の大半をロックビットが占める。このデザインコンセプトこそがレイズナーのキモであり「魂」である。大きめな頭部は、レイズナーという存在そのものを象徴する重要なデザインポイントなのだ。頭部パンチスパンにおいては、設定画をベースにした上と、本編の作画イメージに準じる案の2種類が提出された。ここに掲載するのは、最初期の試作モデルである。



▲作画イメージに準じて、小さい頭部を持つレイズナー。小柄にカットアンドペーパーで作成する反面、頭部がコックピットといふデザインコンセプトがそのまま残っています。



▲劇中イメージに近いアクティブなポーズも自在にできる。肩開脚受け脚の上に可動性は、因縁通り重い印象が残ります。



▲魂スペック版レイズナーが既公開された際の試作モデル。よく見ると、小さい頭部を配置していることがわかる。足部や腰の内側の穴穴も頭部ですか。



▼選ばれた2つの頭部試作品。長い頭部の左、今度はあくまで20分の1のパーソナルモデルとすることが決まり、右の頭部が採用された。



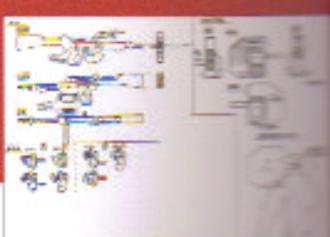
▲頭部のアップ。魂スペック版頭部の解説に、少しスッキリした印象でこれまで頭部に残る。

▶レイズナーはその最大の特徴として、V-MAX時に持つ非常に高速飛行システムを実現する。これ江戸V-MAX発明者即ち頭部ギミック。内部ディテールにも注目したい。



NEXT PHASE

初期に描かれた頭部をもとに、魂スペック版レイズナーが目指す完成形を窺ってみよう。最新技術がこのアイテムに宿す「魂」を吹き込むのか……。その姿勢を感じて欲しい。試作模型と両面を交えての名一覧だらう。



▶レイズナー等の頭部。頭には2重構造が仕込まれ、且首部分はボールジョイントにて自在に可動する。各部の金属部ハッフの部品パターンも載せ奉る。

▶左はLR-B03R等射撃レーダー・ファイナル・パックパックにしておいたBPP-030グローブ・ランチャー。第33話にてカクシュランが使用したBPP-030は、もともとレイズナー用武器として施かれた設定であった。



▲このアイテム最大のギミック「強化版レイズナー」への換装! 全身のスラスターが大型化しV-MAX時の運動性が向上した「強化版」への換装上、各種のスラスター(パックパック)を交換することによって可能となる。これが強化版の機体に生まれながらく「強化版」だけに、頭部が異なる。



▶登場するディスプレイ台座の両面。台座を導くスケンドや回転するスケンド、想像深いレイズナーのメインコンピュータ、レイジングオーラの音声が収録されるという。まさにその内蔵「魂」が、どちらも表現する「魂スペック」ならではのギミックと言えよう。

超合金魂
最新情報

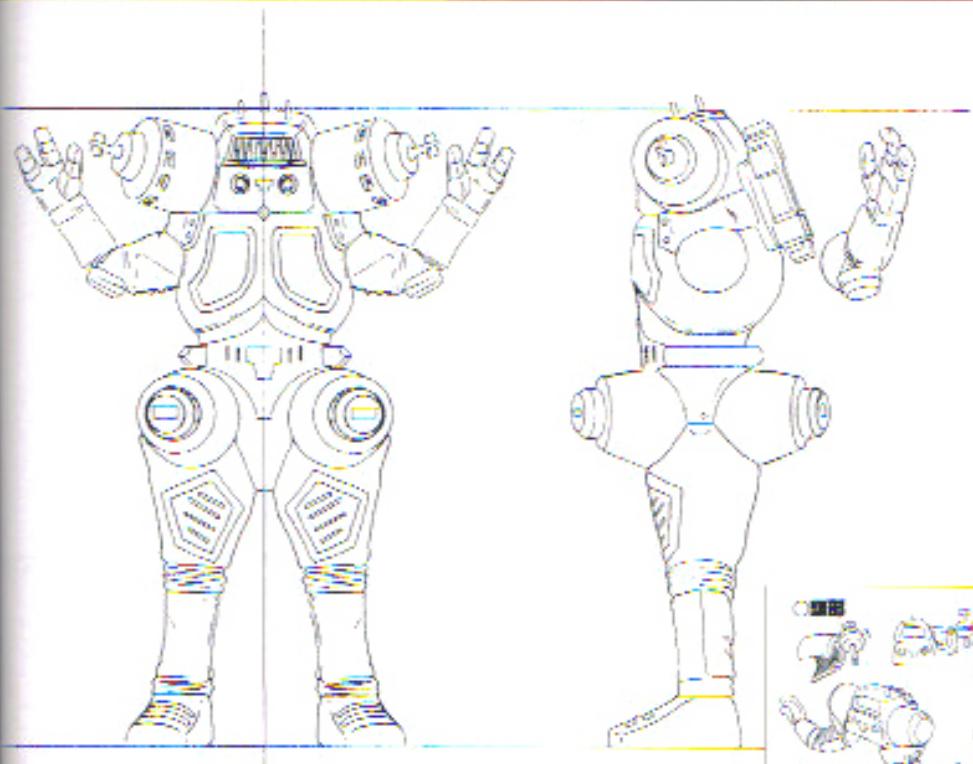
COMING SOON! KING JOE

キングジョー

ウルトラセブン

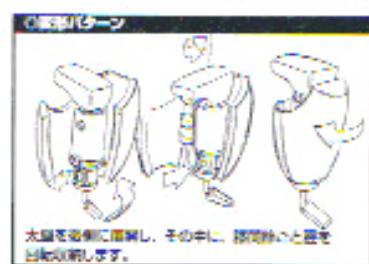
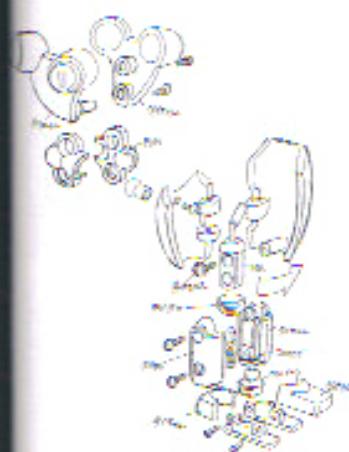
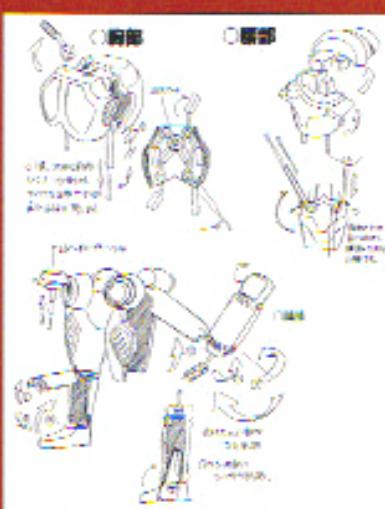
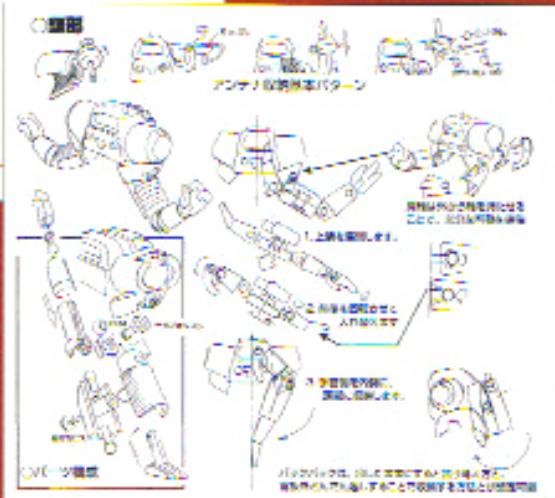
67年10月1日～68年8月4日・全48話

超合金魂次なるアイテムは、特撮テレビ番組「ウルトラセブン」第14話「ウルトラ警備隊西へ 前編」、第15話「同後編」に登場した宇宙ロボット・キングジョーに決定!! 4つのパーツが合体して完成する、當時としては珍めて斬新な機構を備えるキングジョーは、映像作品における合体ロボットの開拓的存在。超合金魂では、不可能と思われていたこの変形合体を差し替えなしで再現する! 最新ロボット・アイテムで培った技術が惜しみなく注ぎ込まれた、決定版キングジョーの誕生だ!



超合金魂 プロポーション用のイメージを確認
ラフ、シーブを用意すれば、分離変形キック
作動するための解説が、これを基に行われる。

▶ 背部と頭部の変形範囲、手首の形状の差などを内視するために、上腹部を中心に関節、2種類の頭を入れ替える構造になっている。また、バックパックの取扱方法に関して、2通りの方法を検討している点が記述される。



太陽を正面に配置し、その中に、頭頂部の位置を

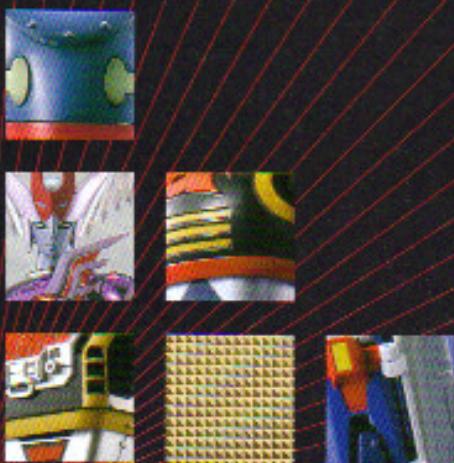
固定してください。

ヒゲ形状後、足首が頭の丸いバーツの側面を出す形に
なりますが、逆にこれによって、足の長さを保てます。

頭部の脚部間、頭られたスベースでの全高を必要とするために、頭から下り4種成までが接続されている。上半身を支えるバーツ
そのため、複数が必要となる。ひざ部等にはクリップも入るようだ。頭もガサに見た完全変形キングジョー。今度も「究極HOBBY
ジアン」本筋にて、細部を追及しよう。向日して育て!

本資料はあくまで検討用のため、商品化には異なる場合があります。また、機械キックは実物に比べて強め

▶ 頭部と腹部に接して
は形状の変化は少ないので、主にアンダーパークの取
扱い・取扱方法が取扱と
なる。頭部は前筋をスク
イドにより固定、スキマカラ
アンダーパークの取扱い、
腹部はヒンジによる取扱方法
となる。ひざの回転に
基づいた脚部の変形は、
別紙とは足首の拘束が
異なる。



THE SOUL OF CHOGOKIN PRODUCT REVIEWS

超合金魂プロダクトレビュー

2004年後半以降に発売されたアイテムを、
鮮明な商品写真と貴重な試作写真をもとに紹介しよう。
成熟の度を増したプロダクトの数々を御覧あれ——。



GK-24

TETSUJIN 28

鉄人28号

鉄人28号 04年4月7日～8月29日・全26話

横山光輝の「鉄人28号」は、人間が操縦するヒーローロボットの脚本であり、白黒テレビ時代から幾度となく映像化されてきた。本アイテムは、今川泰宏監督が手がけた'04年版アニメーション作品に登場する鉄人の立体化となる。そのデザインは、原作イメージに近いレトロなスタイルでまとめられている。

誰もが知っている名キャラクターを粗合金魂化するにあたり、「誰もが納得する理加的なフォルム」を導き出す作業は困難を極めた。粗合金魂らしいギミック・可動範囲の確保も課題にならざったといふ。



▲LEDにより青色く輝く、鉄人の頭(右)。コントロリモコンを近づけると、青色は黄色に変化する。



▲ピューパックパックは、カバーを外し、内部を露出させることも可能。



▼ミニチュアの鉄人用リモコン、金田正太郎フィギュアが付属する。



▲手の拳を大きくするため、カバーパーツも付属。



▲スライド式、サスオプションと強化したポイントなど、付属パーツは複数である。



▲GK-10 ボルトロットの頭を付けられることも可能だ。



▲マジンガーZのアイアンカラーを模倣させてみた。



▲フロントビュー。シンプルゆえに、少しでもバランスが崩れると不器用になってしまいます。脚部強度は高い。



▲DX-01は、マジンガーZ(マジンガーフルボーグ)との比較。両者本体のスクランブルサイズであることが判る。脚開脚には、多くの脚部柔軟シリーズで使われるマグネットジョイントを採用。

**PROJECT OF
GX-24**



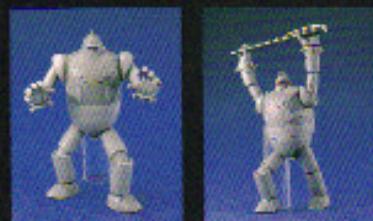
▲付属の正太
郎フィギュアは、
大人の手の上
にちぎせられる。



▶個人28号の
場面名: 金田
正太郎、リモー
ンで西陽操作
する歌人の立
体化には欠か
せぬアイテムと
いふところ。



▲操作イメージ
に留めたままホー
ス。これは先も
可動するので、
操作性は高い



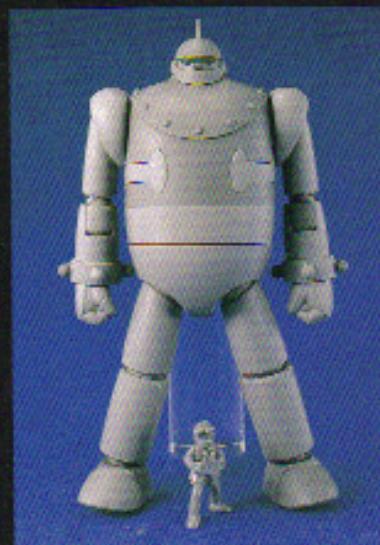
▶ やはり原作
のボイスを再
現するためには、
細みかかるよう
な演技で対応



▲動機論のギミックが暴露した結果、原創部はおよそ90%近く伸びることが可能となった。



▲骨格の飛行用ロケットは原作漫画にて
そこまで今現状、取り扱い可能としている。



◀ 形状及びニック名認定の 操作手順。



▶ 頭が熱かいで寝起き、スリーパーにてお出で。



COLOR VARIATION



GX-24
TETSUJIN 28
Special Color Ver.

「04年発売アニメ「鉄人28号 DVD-BOX」の特典として、封入された山野美登り監修の付したスペシャルカラー・バージョン・カラーリングが



▲正太郎はペイントを歴史、
戦鳥博士のフィギュアも追加された。



GX-24M
TETSUJIN
Metal Robot

アソシエイト





GX-29

B L A C K O X

ブラックオックス

鉄人28号 '04年4月7日～8月29日・全26話

鉄人28号の最大のライバルロボット。遂になく映像化された「鉄人28号」、そのほとんどが作中で登場した人気キャラクターである。

今回の商品化にあたっては、ダイキャストの重厚感や質感を重視したペイントなど、鉄人と同様に純合金本家の魅力を存分に味わえるアイテムを目指して開発。期待にたがわぬ仕上がりとなっている。



▲正面。胴体部分にも、スイングドックが内蔵している。



▲フロントビュー。腰骨を内蔵するため、首の付け根は前後に可動する。



▲オプションとして、指先に拳銃口が付いた拳銃も付属。作中では、ここから空爆弾などを発射していました。



▲スプリングによって伸縮する左腕のスパイクは、黄浦埠山元内部に取組まれる。鉄人と同様の腰回転ギヤで回転されているため、足は最大肩以上に上がる。



▲2004年春版のTVアニメに登場して以来、黒いボディーで、黒い頭部が印象的な、黒いオックスのライバル。



特徴の腰骨装置をマシンアームとして何よりも操作するボディーが、凶悪な匂いを放つ存在。

▼頭部可動を表現したタイプ(左)の他に、目(発光)モードを内蔵したタイプ(右)も販売。





GX-25

GARADA K7

PROJECT OF

СК-25

「プラスM」と共に「マジンガーZ」のオープニング曲、最も有名な機関歌。アザン的と共にとなるセリフのダイキャスト部分には、GX-01R「マジンガーパーフ」が活用されている。



▲スマートフォンへ印字も読み書きも簡単に出来ます。



◀ 図の並脚組合は、
自在に可動する。



▼シンドルが特徴的なアピューン

[マジンガーZ '72年12月3日～'74年9月1日・全92話](#)

超合金魂として初の、敵ロボットアイテム、「マジンガーズ」第1話、第2話、そして前期オープニングに登場する、同作品を代表する機械獣である。デザインと共通の箇所に関しては、GX-01R「マジンガーズ(リニューアルバージョン)」のバージを転用。価格を抑えながら、合金玩具らしい重みと高級感を持つ黒のロボットが完成した。



▲ドクロモモチーフにした、小物類をアザインの演出。



▲腕のショットは、顔を企図シリーズの多くで共通しているもの。このように、本格的格闘も可視化



▲過去の四大在来マダラは、高い生存率。



▲GX-01用 マジンガード(リニッペルバージョン)との比較。下半身など表示している部分もあるが、全体の割合はかなり違う。



GK-26

DOUBLAS M2

機械獣ダプラスM2

PROJECT OF GK-26

その兎首なスタイルゆえに、ガラダと比べると流用パーツが少ないダプラスM2。スネの長いスパイクなども、組合金魂ならではの見どころである。



▲蛇のような首は、自在をボーリングが可能。

▶脚部のバーナー数によって、伸縮を調整できる。



◀この2体は、ほぼ同時期に並行開発された。

▶フロントビュー。既刊「組合金魂」(94ページ)に掲載された写真中間に見る改造変形に比べてみると一見である。

▼口を開かない部分だが、首の付け根もカチンと可動する。

▼ダプラスM2の頭部・首・バー
ナーパークは一際どとに分かれており、驚きを放で長さの調
整ができる。

▶首を延長した状態。一回転
ごとに首在に可動する。伸びかねるところ九形組み、四本指の手
首ノット九形組み。

▶付属のクリップを使ってことで、余った首バー
クを首にカットする。

◀ガラダM2とダプラスM2のディスプレイ台座。
台座はGK-01のものが使用されている。

マジンガーZ 72年12月3日～74年9月1日 全82話

ガラダM2に続いて発売されたのは、ガラダと並ぶ人気機械獣ダプラスM2。組合金魂シリーズ2体目の敵ロボとなる。蛇頭のように自在に動く2本の首は、ボーリングをするときに遊び心のあるギミックだろう。

ちなみに元々のデザイン原案に関しては、ガラダM2は石川晋、ダプラスM2は高橋義典が担当している。





GX-27 GAIKING ガイキング



◀ 古いしてガイ
キングの腕部と
足部、アーム。

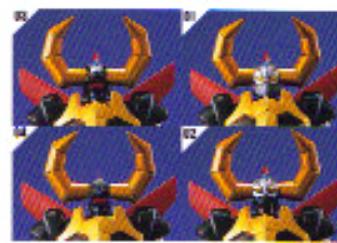
▼ 第22話で
登場したガイ
キング。マックが
強化型と比べる
と、更にスイート
な印象となった。



▲頭部と併用する大剣武具
の装備も付属。

▲カインパクトのある造型となる。強化型ヘッド、脚
部の造型、強化型、さらに船底盤ヘッド内部のキック
アームの3点が付属。ソノのサイズも異なる。

▲頭部とノーマルタイプ、GX-01B マジンガード(リニ
アライバージョン)との比較。



▲フェイスオープンドロップを開いた。ドロップタイプ強化
型ヘッド。両分割された頭部を外すと、特異な形状を有
する強化型ヘッドが露出する。



▲▲ 大きな頭部内の特徴的なメー
リージーしたディスプレイ台に金バ
ージュをセッティング。



ガイキングの全バ
ージュ。強化型に要
化する頭部上、車バ
ージュが多段階にして
いるのが特徴である。



▲ 大きな頭部の頭
部分で既に細めでく
ミラーライトも再現。



▲頭に付いた刀脚装
置・カウンターフィルムは、
手に持たせることが可能。



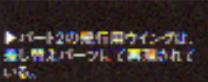
PROJECT OF

GX-27

「他の超合金魂シリーズと並べるために、同サイズのものが欲しい」というユーザーの声に応えるべく、製作されたスタンダードサイズ。それだけに、開発は「以前のGX-05版に対して、何を上乗せできるか」がテーマとなった。目の肥えたファンを納得させるには、当然サイズに応じたギミックやデザインが必要なのだ。



◀パート1、肩の後甲山スライド式の構造になつてあり、可動範囲は広い。



▶パート2の発行用ウイングは、
差し替えたバージョンで再発売されて



▲ 大空発射ヘッド。大形前、上面に空き出ている部分板は



▲ガイモシの頭部がせり上がり、口に運動して、内面に引き込む



パート2との合体ショットには、GX-06「ゲッターロボ」と同じものも登場。





GX-28

Blue Gale Xabungle

戦闘メカ ザブングル



▲専用フィルを備えた、アイキャッチなどお馴染みのポーズ。座面には両スケールのホバードも付属する。

■胸のレンズ状パーツと、コケピットがある台の部分にはクリアーパーツを使用。

■両腕にコロバズーと名づけられたサイルランチャード。左腕には4面ハンドドライバントラウト、右腕には専用フィルを備えたフル装備。機動性は落ちるが火力はハイドップ並の「強ばば強」。ザブングルは男の子用女用版である。

■オプションとして折れた状態の翼が付属。頭のタイヤハウスを外し、翼を取替することでリブーリングル(クロレアモス版)の両側も可動となる。組合せ機ならではのプレイバリューを考えよう。



●同梱タイヤハウスを装着した状態。

戦闘メカ ザブングル

'82年2月6日～'83年1月29日・全60話、
及び劇場映画「ザブングル・グラフィティ」(1983年公開)

高野由恵季監督の意欲作「戦闘メカ ザブングル」の初期主役機。前回のウォーカー・ギャリアと同様、2機のマシンが変形・合体して完成する組合式機と

しては小柄となる全長約130ミリの本体に、前の変形・合体モードをほぼ完璧に再現。頗るな作りと豊富なオプションパーツにより、プレイバリューの高いアイテムに仕上がっている。

画中では第1話より同機種が登場。まったく同じ形の主役機が2機登場するという事態は、当時のロボットアニメとしては撃破りの斬新な設定であった。



▲ブンブル・スキッパーは車両形態から飛行形態へと変形。翼を開き、タイヤを折りたたむ。全体的にはブンブルの上半身を構成する。



▲2台の車両メカに専用した、ザブングル・カー(ブンブル・レーバー)、ザブングル・ローバーを、ブンブル・スキッパーが牽引する。

▲カーゴに武器を積込むためのロープ(フック付き)も付属。車中には



▲ザブングルの下半身となるブンブル・ローバーの飛行形態。2台のメカは手に合体する間に飛行形態となる。



▲コックピットのキャビンはクリアパーツで実現。全体的にはブンブル・ローバーの機首が胴体内部でザブングルの頭を押し上げる形となる。



▲飛行形態のブンブル・スキッパー・フレンクル・ローバーがP.L.M.のローラーが印象深いこの形態は、機首上フレンクル・スキッパーが内蔵する機器を示すことを示す。



▲ドロップインした飛行形態から、車両モード開拓を聞くザブングルの姿形シーケンス。完全な飛行可能を兼ね備えているが、脚部を折りたたむことができる。ここでこのような車中イメージを掲げた車も可憐となる。



▲ゲスト登場的な扱いの近藤恒温性動物標本——遠赤外線モードも付属。必要電動装置や車両用バッテリーは電池温熱性電池充電器で充電可能である。



▲ザブングルの車両モード開拓を示す車両用バッテリー



GX-28

Blue Gale Xabungle

ブラックカリィ (戦闘メカ ザブングル付属)

GX-28戦闘メカ ザブングルに付属する、最大のボーナスパーツ……それが、このブラックカリィの半完成モールである。番組放映当時のプラモデルをイメージしたパッケージに封入されたブラックカリィは、クリアパーツ使用・未装着済みの簡易キットとなっている。誰でも簡単に組める点も嬉しいポイントだろう。

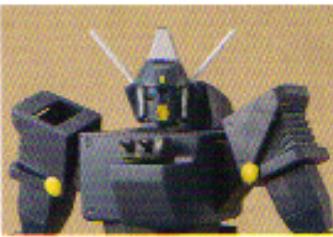


ザブングルとワーカー・ドライバーを容易に装着された、
ザブングルタイプのワーカー・ドライバー。頭部・身体
は可動性がないが、運動性は向上している。



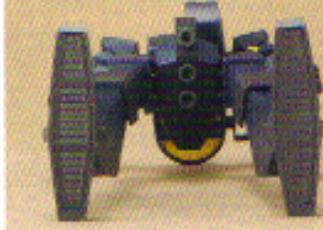
▶地雷トールドの部分を内側にめり込ませて、青の
丸形範囲を内上させている。

▼足裏のモールド形状下のホバースペルなど、細かい部分作り込まれている。



▲キャノピーには、当然のようにクリアパーツが使用され
ている。

◀ブラックカリィの背面、通常脚の運行を可能とする小型ローターが備わる。ローターの横には、専用ライフルを收
めるホールスターを装備。



◀440のザブングルと戻スケール。普通のライバル相手よりもながら放熱機能を付与された黒カリィが、逆に立体化
されている。

◀カーボードマットと背面の青色ライ
フルを備えさせ、金属カラードが際立ち、
可動範囲広がり度。



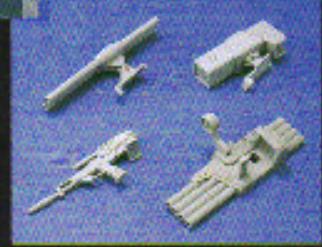
▶頭を含めて全長わずか18センチの本体に、様々な装備が搭載されている。



▲「サンダーブラック」の主要部品を複数する部品を、ホバードも、完成。

▶サンダーブラックの主要武器も、この時点で完成済み。

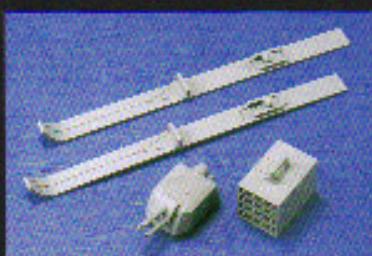
▼あると嬉しい小道具たちも、組合せ後の入念な細心の一歩である。



PROJECT OF

GK-28

劇中の変形ギミックを再現するにあたって、最大の難題と思われていたのが「ブングル・ローバーの機首部分」である。設定上カーボ形態時には既に格納されるこのパーツを、どこに納めるか……? この部分の処理が決まった時点で、本アイテムの成功はほぼ約束されたと言えるだろう。GK-28無敵超人サンボット3のサンボエースでの経験も活かし、小サイズながらこれまでになく密度の高いアイテムを完成させている。



▶組合せ型青面。この時点では、部品数と組合せ度のギミックを備えているのが分かる。

▼リブングル・カー形態。ブングル・ローバーのシャッターは、モールドで溶接されている。



▲形状及びギミック確認のためのサンプル用のモック。

▼この部品では、シャッターパーツが溶接されている。



▲ブングル・スッカッパー。機首部分の变形ギミックは、本アイテムの最大特徴のポイント。

▼プロポーション重視の無骨形タイヤハウスと、安全を重視の可動タイヤハウス。「安全重視であるが、よりノーボーンセーフとしてお洒落める」コンセプトが見える。



▼ブングル・ローバーの機首部分は、完成とは異なりカーボ内に折りたたみ方式が採用されていて、



▲ブングル・スッカッパーとローバーの運転席は、若干の修正が施された。



ブラックカリイ

本商品最大のサプライズであるブラックカリイの試作模型。モックと見えども、組合せ魂と並べるのが前提である以上、一切許されない。



▲サンダーのバランスも、サクシードアップ込み。



▲サンダーのバランスも、サクシードアップ込み。

▲サンダーが小さめだったために、スクールを統一することが出来たとの声が多かった。

▲組合せ魂的なディテールが追加されている。

ここでは、「電撃ホビーマガジン」2005年10月号に掲載されたGX-28 戦闘メカ ザブングルの作例を紹介しよう。GX-28リースの前月(2005年8月)に、「戦闘メカ ザブングル」プラモデルの再販が行われた。GX-28自体も当時の1/144キットを意識したサイズであり、「魂版ザブングルをプラモアルファに仕上げる」という企画が生まれたのは、むしろ必然であったと言えるだろう。

Blue Gale Xabungle

GX-28 戦闘メカ ザブングル作例集



	02	
	03	01
06	05	
06	05	04

- [01] 落葉ツバナの「ないし、大地」を有機化してアーティスト。ザブングルによる、物語る音楽が聴き取れるこの曲の特徴では確実にヨーカー・ヨーリアスも覺えた。一瞬で掠めたりする、スマッシュカット風にも思われる。
- [02] ホリゾン線のサブスクロ。迷走めながら主張とバイブルまでの入りとそれが、最高の感情を吐き出している。
- [03] スキーマ般も、少し寂か、少し涙、涙は涙大きい。
- [04] 開拓精神。ソノ家のアーティストは、被験的に歌詞が歌えられている。
- [05] プロモ・ショウ優先の樂曲系タイプハウスが染め込めた感覚。
- [06] 駆け足横笛、フロント観る山岸駿記、西のタイヤハウス隊にも温かい想いだ。



ザ・ブル

(G.I.-28)の足りと言えば、中止する上プロポーションの両立を確立した上で変形機構やアロボーションなどを併用せず、全身のバーナイングで、手足など、フレキワークの基本要素を構成した角足発光能の記号ということらしい。その心細化からアニメーターを意識し、脚の運営で仕上げた。脚本にて脚本家が行われている。

通常のプラスとは異なる多孔性樹脂、
ケミカルなどの素材が用いられており、
や段差、ビス穴などを埋める接着剤
を専用に使用。太ももなど、黒ヘビの
ネジ穴に施せられたキヤッパーをピ-
ッパーではじくり出して分解した。左
ネジ穴は、後のメンテナンスを考慮
している。製作：吉川伸一



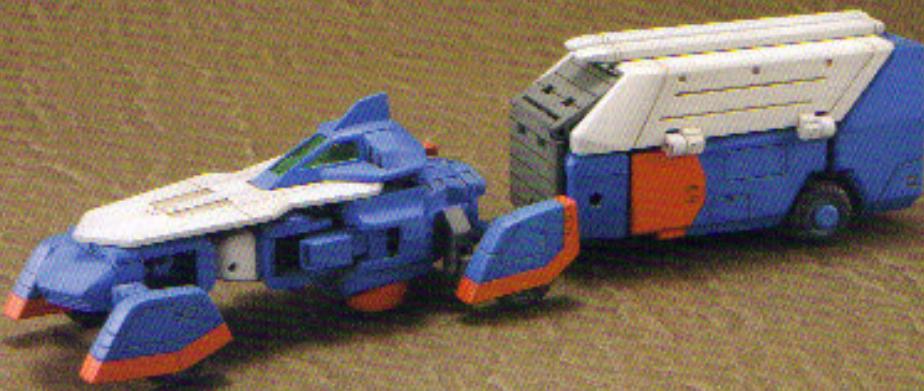
Blue Gale Xabungle

GX-28 戦闘メカ ザブングル作例集

ブングル・スキッパー



ザブングル・カー



ブングル・ローバー



07	05		01
08			02
09		05	03
10		05	04

[01] 平面計画についてと並びえて仕上げられたサブシグナル・バー。スビ入れとアーマー構造に沿うアーマセティル・バーが要因となった。機動だけで印象が変わった分野であろう。

[02] 腹部も、同じシートター・バー(サグラー)の形状。

[03] ウイングバー(ワタ種)、ウイングの心地め、新品と同時ランプルームキットバーのランクバーを削して作成。

[04] 本機は脚のモッキンが左脚のモッキンオフショットバーつか、今でも体に合わせて追加がなされている。

[05] 犬耳の装備が追加されたりパンチポートに違い、要所結構には一切手を入れていない。身体・足部シーケンスの再現も、ダブル足の各脚

と併せて容積効率高め。

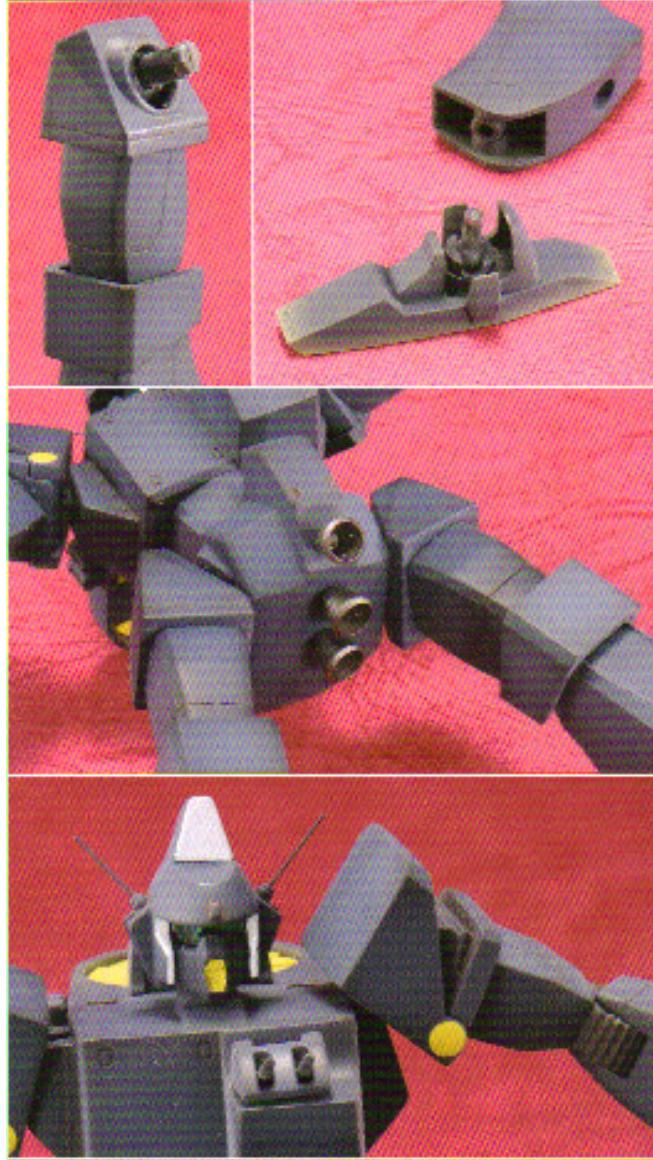
[06] ブラックバーパーツを削除して、カカトバーを製作。通常の黒いバー(黒脚材)に塗装している。

[07] 腹部脚部も内蔵するアーマセティル・バーを組み込み、走行用の足部。

[08] 腹と腰は、腹側に内蔵するアーマセティル・バーを組み込み、アーマー化した。

[09] 頭部ドンナは、黒脚材でアーマルアップ。頭部脚部の内蔵アーマーのため削り取る部分の穴は、黒た百合形状としてアーマー化。

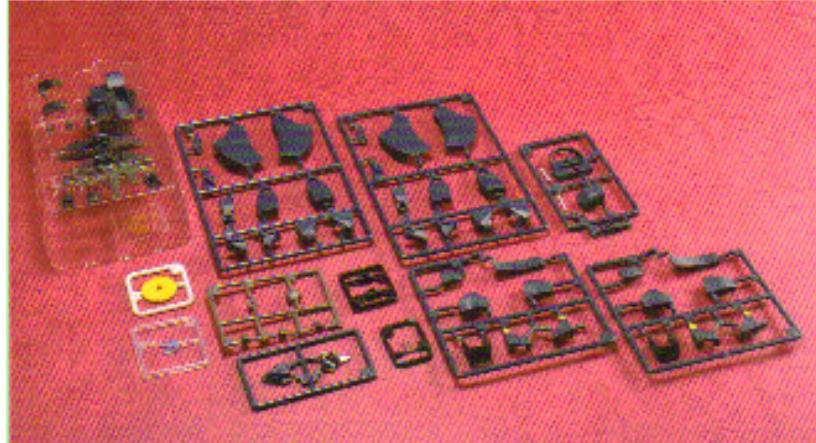
[10] 頭部脚のランナーバー(サグラー)。最優先の論理は脚部は脚部に付けるだけで済む通り、仕上がりが山形となっている。



01 第二次超合金魂改造計画

ブラックカリィ

続いてMS-28 黒脚アーマルアップ用キット・ブラックカリィの紹介を。作例はザ・シングル開拓、フルモデル用アーマーによって製作された。プローションなど古い部分は製品版のアーマーをカスタマイズアーマーと簡略周りに手が加えられた。ページの記載のみのと違いモード一覧を作成しておいた。





本体が人体に近
似する形態に
変換がある。



GX-30

BATTLE FEVER ROBO

バトルフィーバーロボ



本体をシールドモードに変換した状態には、アーマーなどを装着。



正面・合体モードのギミックが複数ないシンプルなアイテムだが、高機能化実現する。





バトルフィーバーJ

78年2月3日～80年1月26日・全52話

スーパー戦隊シリーズ30周年を記念し、戦隊ロボ第1号を超合金化。超合金魂ブランドでは初の「実写作品ロボ」でもあり、今後の新たな商品展開を担うさせるキー・アイテムとなった。変形・合体

などの機能はないが、劇中のアクションを彷彿とさせる生き生きとしたポージングが可能。

なお超合金版では、劇中と同様に格納機能の付いた万能手帳「バトルシーカー」も発売されている。プレイヤリューを広げる魅力的なアイテムだっただけに、超合金魂版に合わせたバトルシーカーの登場にも期待したいところだ。



▲三式の怪アタックランサー。



▲胸部分の浮し鎧部分が薄張られたバトルシーカー。



▲テガフィーバー アックス、劇中未使用のレアな武器カッカルバフラー。



▲腰のホルスター



スパンコールバトルフィーバー
一口水を立たせ、第1脚
一見透けて見える美品等
を有する。



▲横としても使えるレスティックアッター。



▲腰のホルスターに収納する際の姿勢。



▲付属のアイスブレイブ剣には、豊富な装備バーチや武器類を全てセット可能な丸いソードバー^{バーバー}は、バトルフィーバーロボのホルスターに収める。



▲スタンドのデザインベースとなっただけ、バトルフィーバーロボ 超合金版のバーバー。両サイドに腰袋を装備する。

旧超合金版との比較

79年にリリースされたGB-03超合金バトルフィーバー(写真左)と超合金魂を比較すると、超合金魂が旧アイテムと同じサイズを意識して作られたことが判る。アサイン画に忠実に立体化された旧超合金版に対し、超合金魂版はアクションシーンに使用された着ぐるみを意識して製作されている。

トントンのデザインに対するアプローチの違いが、おのずとプロポーションに大きな差違を生む。



▲超合金用の
長いビームエフェクト。
そのほか――。



▲超合金用の
スチールサイバー。



左図が人体に近
い立ちの状態に
変換がある。



GX-30

BATTLE FEVER ROBO

バトルフィーバーロボ



▼ ▶ 公孫の「電光斬撃竹剣」を握り
出し電光剣は頭に収めることが可能。



右側の脚チーンクラ
ーの先端には、ア
ンテナなどを組
み替える。



足部・合体部位のボルトが存在しないシンプル
なアイテムだが、武具類は充実する。

PROJECT OF
GX-30

足首の可動範囲が広く、操作性が高いため、足を広げたり、狭めたりする際も非常に扱いやすい。



電光剣を抜刀する。腕の
動きは完全のドットアクション。



△手首を平手に交換するだけで、腕の動きが生まれる。



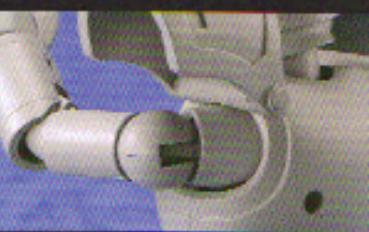
△製作部品背面、腰帯ヒモ、脚部が
仕込まれており、実物の構造を再現。

「着ぐるみを再現する」ことを主題として開発された、総合企画パトルフィーバーロボ。劇中と同等のアクションを実現するため、人体を意識した関節配置と可動範囲の広さ、そして最大の特徴でもある多彩な武器類の再現が求められたのである。

形状落としを防ぐため、試作模型、無骨なロボットであるが故に、フルアーフションノーマルとしての完成度が追求された。

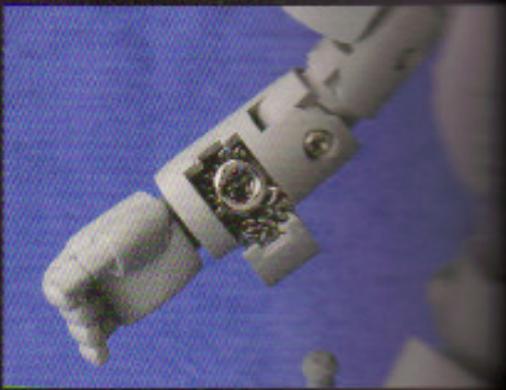


△電光剣となっており、可動部の胴体から引出する軸柄を内蔵。これにより、最も重要な「電光剣の両手打ち」も可能と



△ボーナスの腰となる部分には二重関節を採用。180度まで曲がるので、あらゆる後弯に 対応が可能となる。





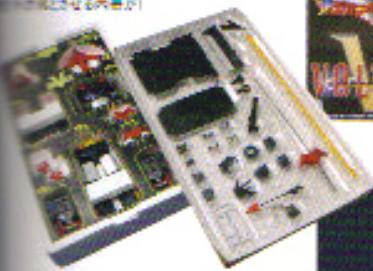
▼首には胴体側に複数の開脚に可動軸が用意されている。



▲首の造り、見掛けを考慮して次第の高さぐらみより少し大型化された。

▲巨大化したスケール

開封したボルトイントラック(75
円)が付属する大迫力!



GX-31 VOLTES V ボルテスV

開封したデザインを有するボルテスVの標準。
左側は胸板から分離する。背面では光刃
用、右側はカバーパーツを装着。



開封した頭の可動も見事。軽々と手により、首
部の複数構造を両立している。



開封イメージ
嬉しい
開封されている。

組み立てるのは、
簡単!



超電磁マシーン ボルテスV

77年6月4日～78年3月25日・全40話

「超電磁マシーン ボルテスV」は、決め技に剣を使うロボットアニメの元祖である。GX-01 超電磁マシーン ボルテスVは、GX-20無敵超人サンボット3以来、約2年ぶりの変形・合体メイン

の超合金となった。作品的には「超電磁ロボコンバトラーV」の後番組であり、5機合体というコンセプトも継承されている。それゆえにGX-03超電磁ロボコンバトラーV上の無い踏みを期待する声も多かった。GX-03から7年、整整の2ショットは、その間の技術革新を再確認出来るものとなっている。



▲右の手が赤い腕内側から出現するボルテスバスター。なんと差し替えることでこのギミックを実現している。



▲新電磁ストリングの頭部等に接続して吊り物(シャン)を再現。頭のペルトバーを外しておくことを忘れずに。



▲必殺技「矢張剣V3号斬り」のポーズ。このあたり姿勢異常。ペルトバーの司令機構造が複雑で、腕の可動範囲は広い。足腰は太脚で、この矢張剣両手持ちの姿勢を再現するために奥筋がかかる。

▼首の上に右腕を搭載させ、ボルテスバスターを装備。右半面には左手を添える。



▼カリビングスタイルは手首との差し替え式。手首の取扱手を上に持てば、腕が内側に回転するシーケンスを再現できる。



▲矢張剣を構えるボルテス。刀はパンタグラフ式に折り畳むことで、完全収納される。



▲もちろん超電磁ゴマカ2種付属。收音器材型の超電磁ストリングをセットすることができる。



▲チューンナックルはバーナード通り外すことでの極端な状態を再現可能。これは頭部等には載っていない裏ワザ的な遊びである。

▲ディスプレイ台座はビッグフルコン番地をイメージしたデザイン。武器はどちらの手と、何處の箇所かまでもディスプレイできる。



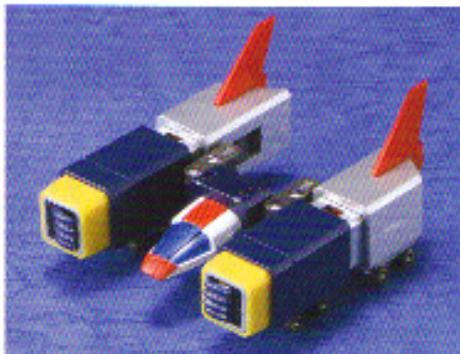
▲左はプロポーラー、右は完全封鎖型。中は出力用の電源ケーブル。右はボルテスバスター用。左は大変重いので、

▲腰袋部分に一時的に取出することで、可動範囲が広くなる。外見と寸法が同じなので、ギミックである。

GX-31 VOLTES V

ボルテスV

ロボポンバー。合体時にボルテスVの頭部となる。頭部を有する機器の愛称。



モーディングボアは、スパウトからの調査士。右は日本仕様、左はアニメに登場した仕様である。



ロボフリゲート。合体後モードの愛称となる。



機械部分は大型部裏面に搭載。人間兵器のスイッチにより、スプリングアクションで飛び出る。



ボルトクラーザー。ボルテスVの頭部を構成するボルトクラーザー、小型戦闘艇としてのフィルムも、劇中そのままのイメージとなる。



クリアバーフ型のイノビーは、実用が可能。



機体を右に回転するクレーン式伸縮式。ボルテスV機体へと変形する際には首を逆回転される。



ボルトバンサーは、ボルテスVの頭部となる車両界隈のキャラクターである。



機体上部のバンサー・アームは可動する。

マーカスとして、劇中でボルテスVの危機を救った頭部付属。ボルテスVの背面への合体も可能である。



床下に、通常はボールのコンロール装置を搭載。ボルテスV背面から装置をセットする。



ボルトランナーは、中央から左右に分離してボルテスの両足部となる。



前面のシャッターを開けば、ランプドリル作動。

GX-31

▶ボルトクランサー製作。キャノピーの開閉やコクピット内の作り込みも、この時点で実装している。



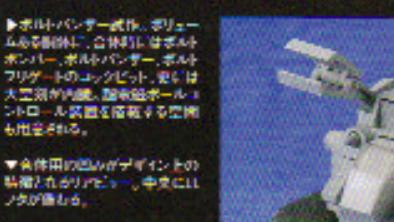
トアームの中に横方向軸を用意。これにより首の方も可動が実現した。



▼頭の先から出張するクラーカーは、首も首元にて可動。



▶ボルトパンサー製作。ボリュームある胴体に、合体時にボルトホルダー、ボルトパンサー、ボルトフリゲートのコクピット、要らぬ大型部が内蔵。頭部はボルトホールド装置を搭載する空間も用意される。



▼合体用の凹みがデザインとの相性をよりアピール。中央にはソフが飾れる。



▼ボルトランサー製作。合体時、上部アンテナは前方へ倒すこととなる。



◀ジェットノズルにも
マウントがある。



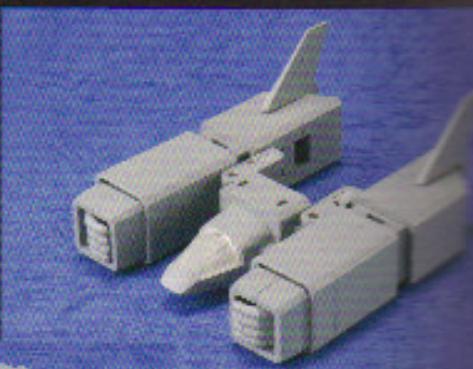
▲機体の前部は上下2段のアームで構成された構造になっており、頭を通りの合体が可能。頭部前部にマウントする。

PHASE|01

変形・合体ギミックと形状確認用の試作模型

各ボルトマシン形態の仕上がりをチェックしていく。

GX-03超電磁ロボコンバターバーの各モードに接続すると、コクピットのキャノピーには全機クリアバーが表示されるようになり、キャビラやファンディングモードも実現。当然、フォルムも完璧である。



◀融合全機バトルジュットとのサイズ比較。機体の大きさは異なるが、頭部のボリュームはあまり変わらない。

▼リニア・モード用
頭部の格納も、本編の見せ場だ。



▲多段モードが内蔵された頭部と、可動性の高い頭部形状からなるボルトボンバー製作。頭部二段式が見られる。



▶リニア・モード
インノズルを後方に向けた状態。



▲GX-03構成。車輪にヒサスベンションを内蔵。合体時は荷重で倒れ込む。



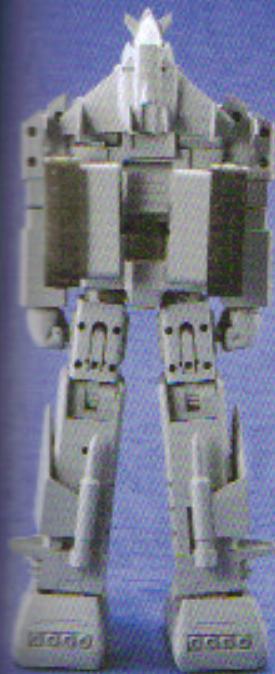
▲パンチング部のハーフがいいボルトアーマー仕様。後部マウントアーマー仕様となるため、ドントドロップ時にはインノズルがトロトロ。ドスガの先端は強度で守る。

PROJECT OF

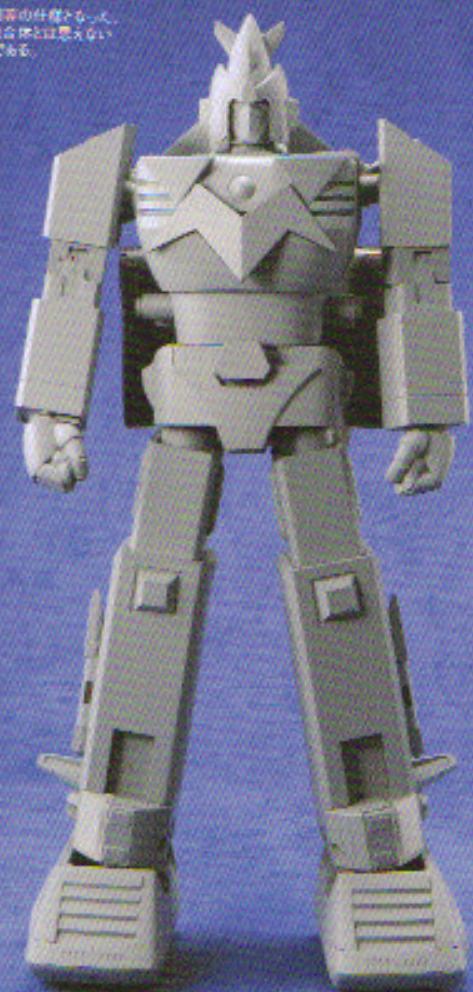
GX-31

PHASE|02

合体後に関しては、プロポーションの再現をクリアした上で、これまで以上の可動範囲を実現。ギミックにも新たな試みが随所に見られ、意欲的な仕上がりとなっている。また、開閉の保持力や可動部の強度など、目に見えない部分での進化も大きい。これまでの商品開発で蓄積してきたノウハウが、見事に結実した結果と言えるだろう。



これは開閉の仕様をもつた、複数組合体とは思えないシームである。



▲左腕の左右方向の可動は、ボルトマスターの変形機構をそのまま活用している。



▲リニアピューラー、トルクランサー等のボルトマスターのキャラビットが、背面を占める。

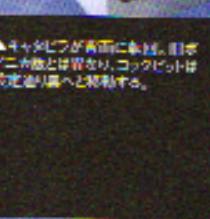


▲首の方右方向動を備え、ボルトランナーとのショートは協力で固定される。

▲まずは、合体直前のV字開閉を背景。「Vトライドローダー」の動作音と共に、要所・合体タイミングを確認していく。



▲下脚部外装が前にスライドし、荷物搬送用車輪が伸び、車両モードへ移動。



▲キャラビットが背面に奉仕。日本ドニカ版とは異なり、コックピットは次元通りへと移動する。



▲機首部分が体内潜入式トイ。両サイドにドッキング用フックが露出する。

▲トルクランサーの分解。左右のショートは、ボルトマグネットとの合体にも用いられる。



本商品の日本とも言えるのが、この「空戦新戦闘ヤマグ」。頭の部分だけを中心とした構成で、頭部の「空戦新戦闘ヤマグ」も実現可能である。



▼第24話に登場する雁人の外見 모습。



▼ヤマギュラと、制御装置の軽飛スペースが出現。既にGで見えたボルテスとの合体シーンを再現できる。



▲ボルテスとの合体バージョンを装着した状態。

▶下のバージョンは、ボルテスに干渉される御茶園ホールのコントロール装置。



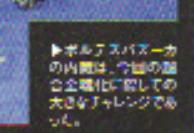
▲空戦前の大手首。一見しただけでは左手との差異が



▲手首が折りたまれ、ボルテスバズーカがスライド可能。



▲ボルテスクルーザーとは異なるボリュームを持つ。



▶ボルテスバズーカの内側は、今回の組合せ機化に際しての大きさをチャレンジであった。



◀ブランケット、電線ストレーブ(武器)、大型泡、電線ゴマ、ティンナックル、ガリソンバー、電線椅子、魔杖。



◀一度会した、お隣のマン。空戦一合体モードの技術の進化を確認してみてはいかがだろう。



「オプション武器セット」は、「超電磁ロボコンバトラーV」のDVD-BOX発売を記念して製作されたワンオフもの。キャンペーンの一環として「電撃ホビーマガジン」誌が提供し、DVD購入者の中から抽選で1名にプレゼントされている。GX-06超電磁ロボコンバトラーVに含まれなかった武器を補完するというコンセプトで、スクランチビルトされた。製作:田中典明。(2006年5月号掲載)

Com-Battler V

POWER UP WEAPON SET For THE SOUL OF CHOGOKIN

【超電磁ロボコンバトラーV】
超合金魂パワーアップ武器セット



06	05	03	
07	04	01	02

[01] [02] 原作から変動される武器・ビッグプラストアライナー。初回に使用されたビッグアライナーはシンプルな大型アライナーであったのにに対し、次期に登場したアライナーは先端が四角、そこから伸びたアライルが装飾される。

[03] 通常装備の盾を盾式武器に用いられるローラー銃ポーバトルガレッガー。この盾にもコンバットバーの盾部分からは多様な武器が出現するが、これらを組じて「ランダーレスト」と呼ばれる。

[04] 各部のバーフを抜いて刃を出し、闇に潜む敵を爆破するカッターキック。切り落とす敵のリヤーリップ等に沿加されると

この一式である。

[05] 銃本體クリートと呼ばれる、ランダーレストのシリエ・ショットの。先端のカッタードロップ削除する場合は、マグネットトーチ等はされる。

[06] 爆雷銃コーダーカッター。通常の爆雷銃コーダーをラン古付けて作り出された、ローラー銃ポン、第4話のみで使用。[07] ハーネス武器セットのハーネス質。主な材料はプラスチック・オレンジ、ブリキテルの金属バー等。「爆雷銃コーダーブルカッター」を装着するための電線端子等は、ブリキ製エンドキャップの2種類が用意されている。



02

第二次超合金進化篇

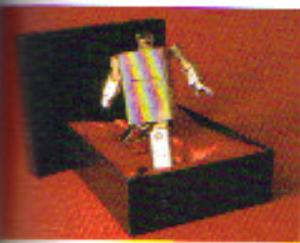


GK-32 GOLDLIGHTAN

ゴールドライタン



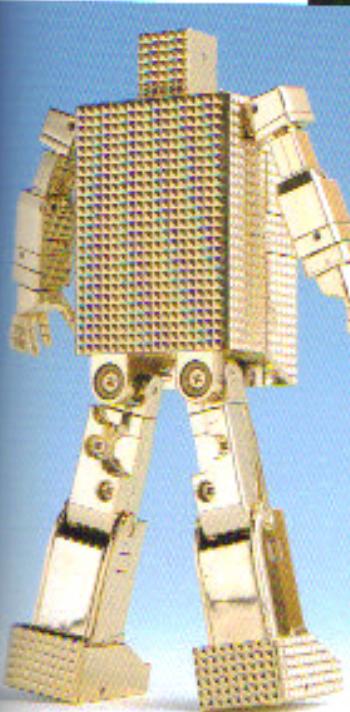
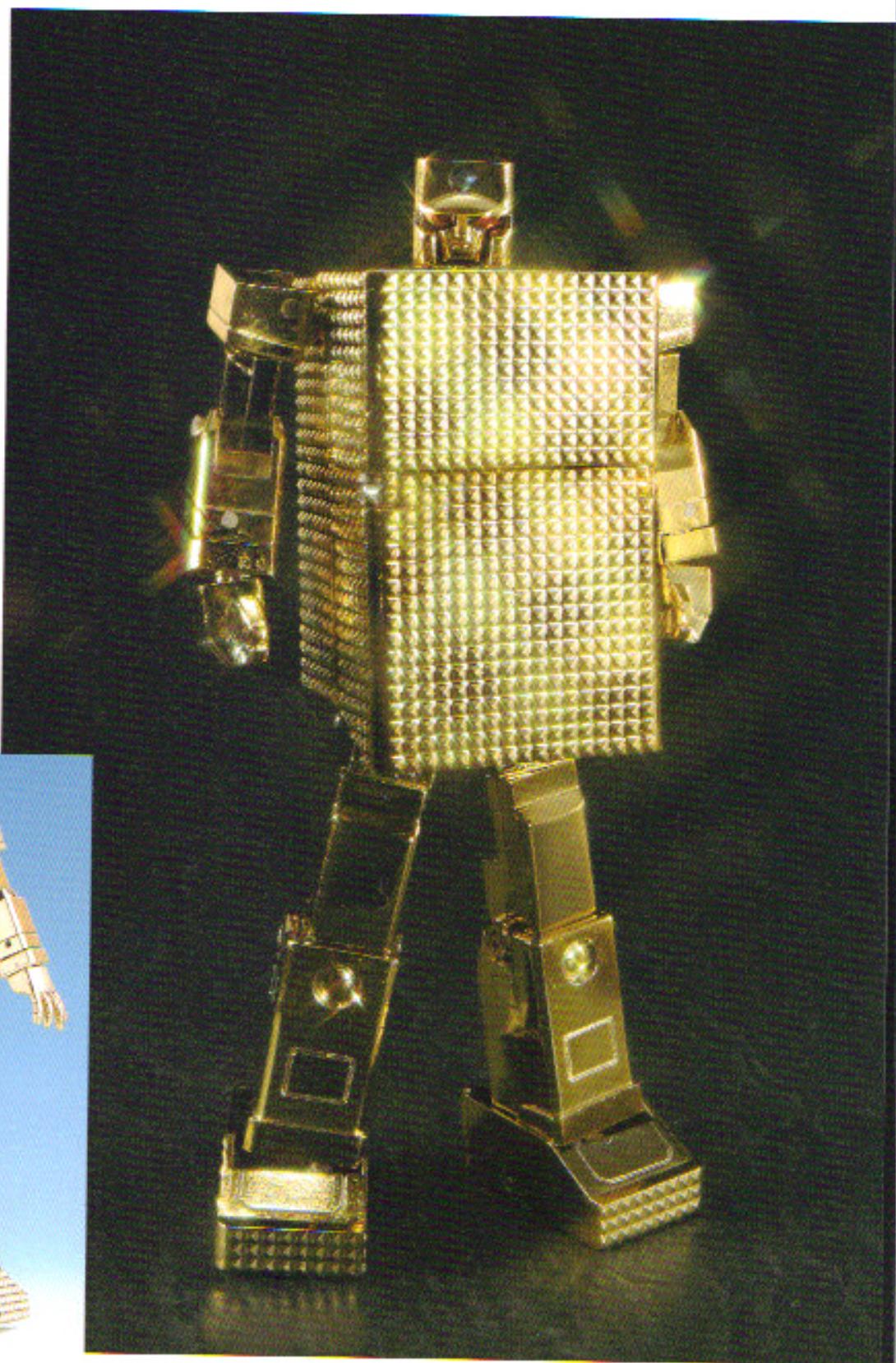
二重構造で、中には黒漆器を用いた内箱が。



中に入らないが外箱の上蓋には、金箔でタイトルが入っている。

ヒューマノイドボディ特有のフォルムが大幅に改善され、アーマー性を印象化。

脚部合金板を装備していると、足の動きに

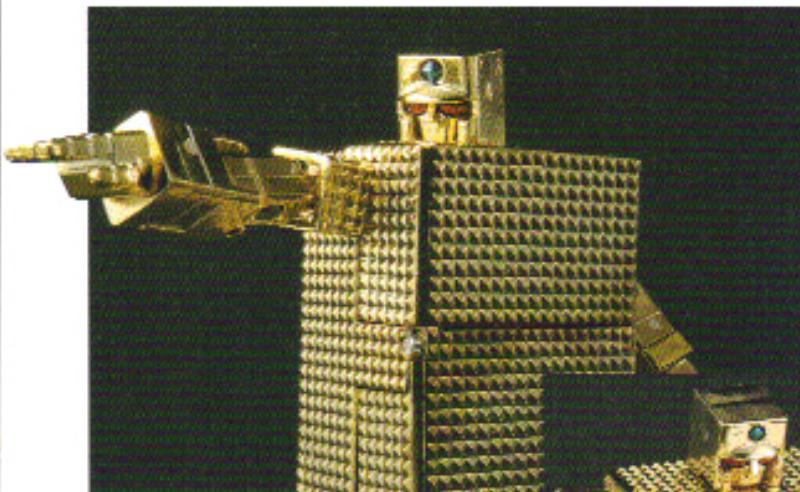


黄金戦士ゴールドライタン

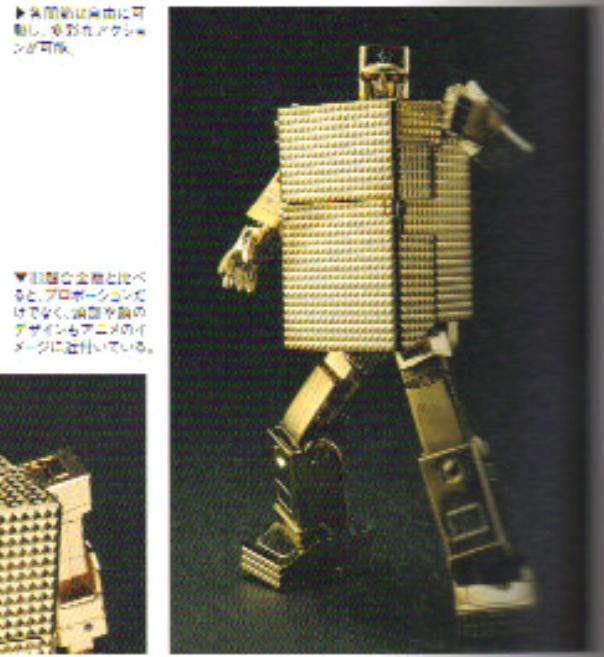
'81年3月1日～'82年2月18日・全62回

ライターが「ロボットへと変わるシンプルな変形機構や、クリスタルカットと呼ばれる美しいモールドと金メッキ、そして何よりも「大人の持もち物」を感じさせる高級感で、当時の子供たちから絶

大な支持を得た旧超合金版ゴールドライタン。今回の魂版では、田西基の魅力を損なうことのないよう留意しながら、全く新たな設計でプロポーションや可動範囲、変形機構を追求している。「子供が憧れた品」から「大人を満足させる品」への進化は、超合金版の基本コンセプトそのものと言えるだろう。



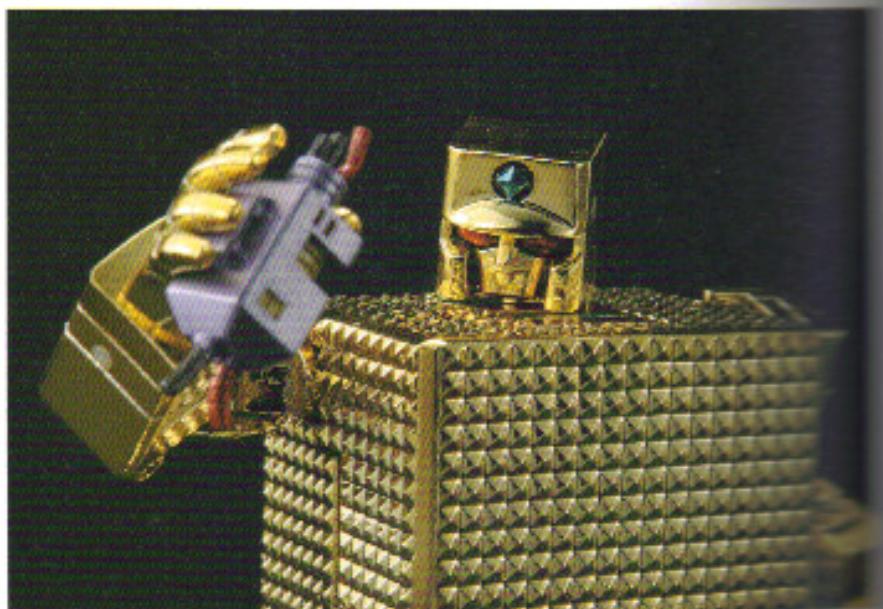
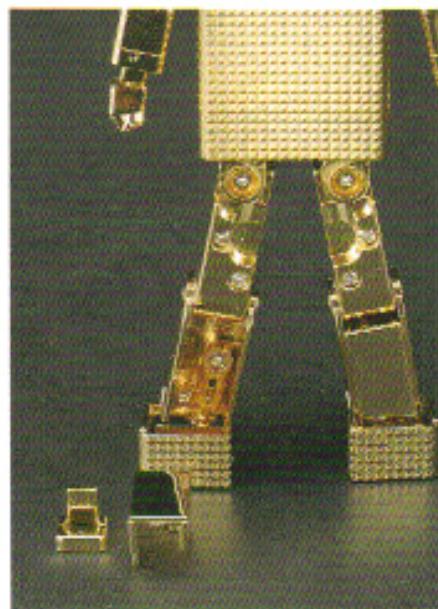
▲左の手バーチには、変形用・ゴールドマッキンを内蔵するための手刀型内蔵。



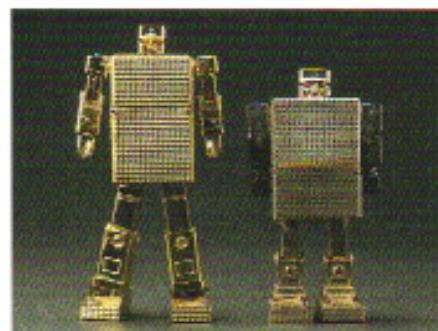
▼旧超合金版と比べると、プロポーションだけではなく、頭部や脚のデザインもアニメのイメージに近付いている。



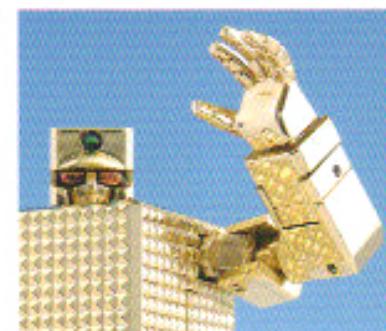
▼変形の都合で立っているくらいのスペースは、足元のオプションバーで解消とも可軽い左脚のアーマー、手首用のカバー。



▲ゴールドクラッシュ時に頭の身体から引き出している、オカ心臓ハーフまで付属。



◀旧超合金(右)との比較。旧超合金の柄は、田藤とせべても差はない。

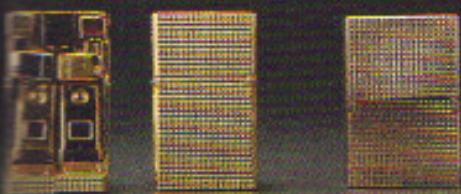


◀▲複数の変形システムの組合せによって、様々なアームが組み立てられる。

GX-32

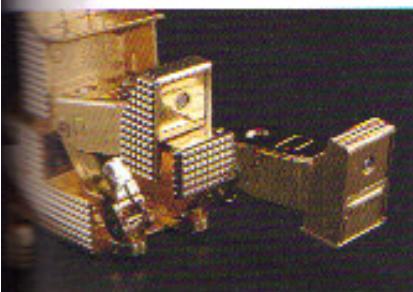
GOLDLIGHTAN

ゴールドライタン

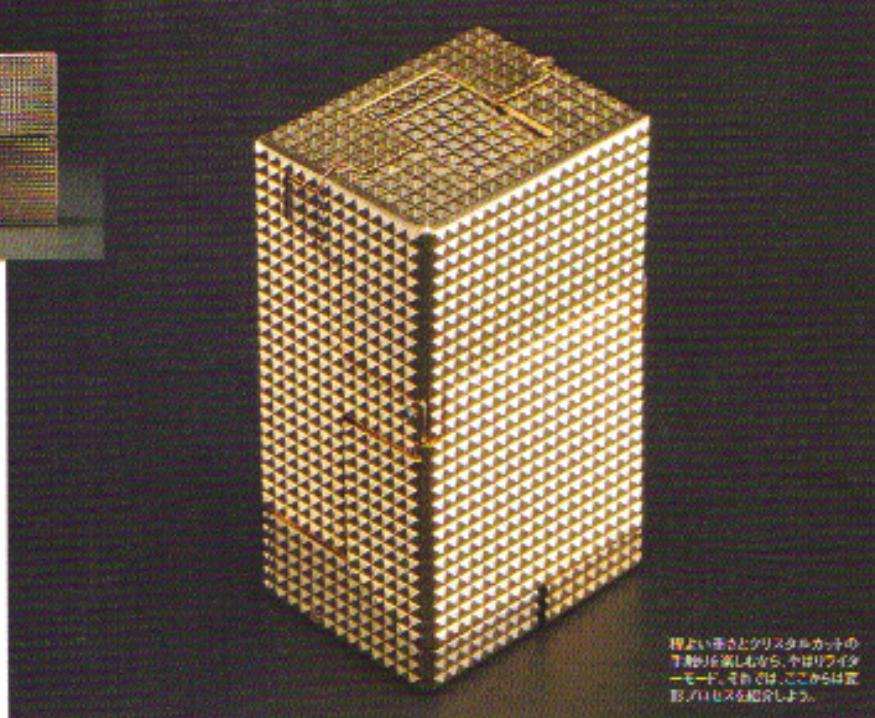


モードでの比較、右側が複合金版、中央が純板、左は複版の内

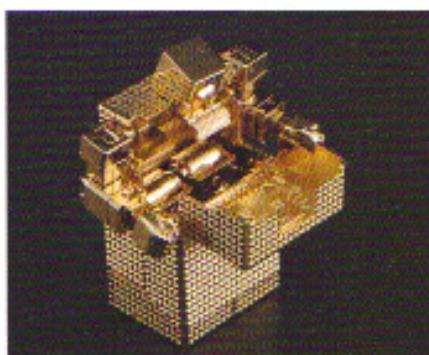
複合金版の
特徴について
詳しく説いて
おきたい。
複合金版を組み
立てるための、
手順だ。



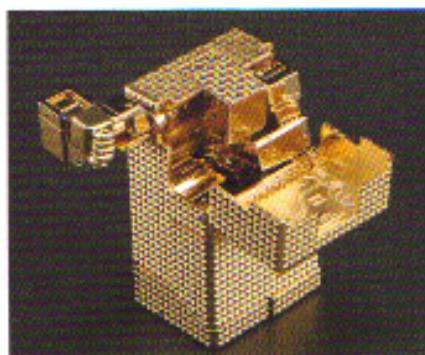
複合金版にして、下部のフタを開めれば内観。方角部分の変形が見
えて面白い一枚買っているのも、重要なポイントである。



程よい重さとクリスタルカットの
手触りを楽しむなら、やはりライターモード。それでは、ここからは変形プロセスを紹介しよう。



▲底を開けたら内部を引き出し、上部のフタを開めると上半分が完成。

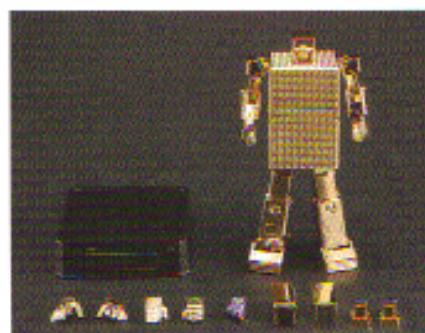


▲まずは下部のフタを開め、両脚を引き出す。当然、手首は付けたままで金属の強度にはならない。



▲会員登録者は、全て付属の各画面に収納することができる。

◀合体上面に貼られた赤いフェルト生地が、摩擦力を高めている。



▲オブショッパー式、手首バーにミラーリング機能が搭載しているのだ
けでなく、手首では解決できなかった複数部品のハンドの問題が、ついでクリアされたのである。



GX-33 SPIDER-MAN&LEOPALDON

スパイダーマン&レオバルドン



マーベルの色彩が背面に見える。

公認新ソードビッカーの刃ヒンケルバークを仕様。クリップ部分も途中ノット部に開いた通りだけが残されている。



▲直形も斜形もアームを握り替
換した際、簡単カーボリングはスム
ーズタイプでも可。

頭部のスイ
ッチのア
ームを抜く



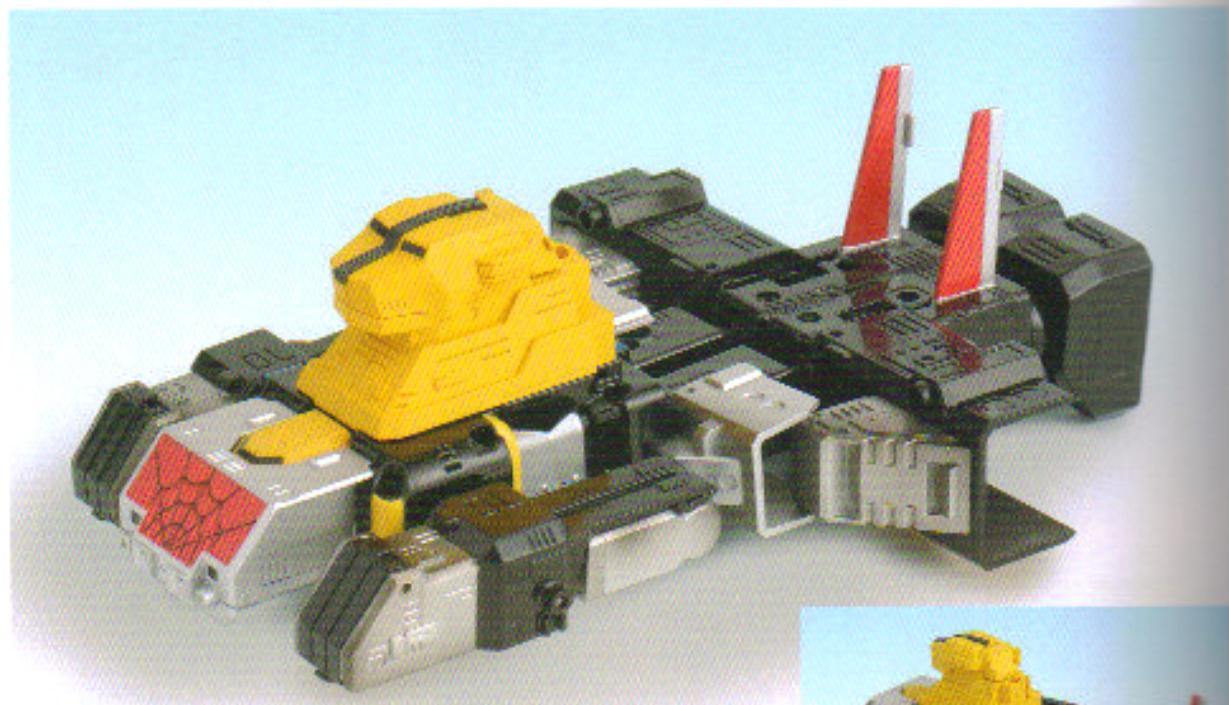
付属の変換用スパイ
ダーマン(リトルモビル)
に装着ハサウェルバー
二人用バットに替る変
換ヒーローバットバッテ
リイメージングアームで
ある。脚は伸縮式の
可動タイプが特徴。

ヒンケル
バークの
内蔵スパイ
ダーマン

東映版スパイダーマン

79年5月17日～79年2月14日・全41話

超合金版としては、GX-30 パトルフィーバーが最も早く特撮系ロボット第2弾。「東映版スパイダーマン」は、要塞ヒーローが巨大ロボットに乗り込むという、いまも「スーパー戦隊シリーズ」に受け継がれる普遍的なフィーマットを、初めて確立した作品である。当時の超合金も、劇中の変形を見事に再現して「名作」と呼ばれた。21世紀の技術によってリメイクされた超合金魂版では、変形に加えアクションフィギュアとしての広い可動範囲を追求。ソフビ魂スパイダーマンを始めとする多彩なオマケも、プレイバリューを高めている。



▲レオパルトンに変形する宇宙戦艦マーベラー。劇中プロップに準じたプロポーションとディテールを有する。

マーベラーからの変形

本アイテム最大の売りは、宇宙戦艦マーベラーからレオパルトンへの完全変形ギミックである。ここでは、劇中そのままの変形シークエンスを順に見ていこう。



▲マーベラーのリアビュー。足裏のティアラにも注目。



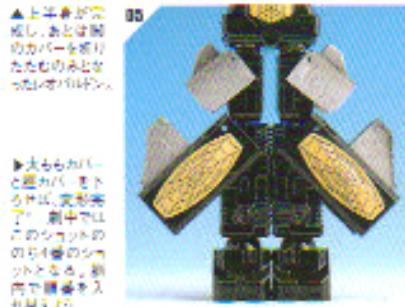
▲上半身が完成しあとは脚のカバーを折りたたむのみでレオパルトンへ。



▲引かれていた腕を抜擢し、上に引き上げる。



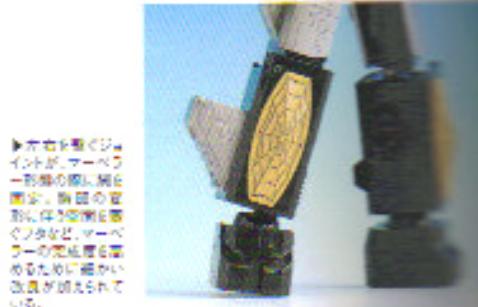
▲マーベラーの座席部分から、レオパルトンの頭部が出現。



▲太ももが少しとぎれ、まとまらば、完成完了! 剧中ではこのショットののち4番のショットとなる。脚内で腰帯を入れ替える。



▲脚部は脚内に収納。



▲左足を腰ぐしインサート。マーベラー転換の際に脚を固定。脚部の変形に伴う空間を確保するなど、マーベラーの完成度を高めるために細かい改良が施されている。

GX-33

SPIDER-MAN&LEOPALDON

スパイダーマン&レオパルドン

ミニカ スパイダーマシン GP-7

▲本商品には、
ミニカ仕様のダイ
コボディを持つ
スパイダーマシンGP-7
が付属。

▲赤色の車体部分
（以下）は、ミニ
カスパイダーマシンに
組み替える形で
乗せて遊ぶのが



▲マシンロード（小）は劇中通りマーベラーの転倒に墜落



▲ミニカ仕様GP-7の他に、ミニカスパイダーマシンGP-7（小）も付属。ミニカスパイダーマシンGP-7（小）



▲ミニカを組換できるのが



▲合体の左侧を開けると——？



▲右側に開けた扉を開いてみると——？



ソフビ魂 スパイダーマン（東映版）

本商品の目玉とも言えるのが、ヒーローソフト人形「ソフビ魂」仕様の東映版スパイダーマンが同梱されていること。今のところ単品での販売が予定されていないスペシャルアイテムだ。名乗りのキメポーズでの立体化となる。



▲サイズが大きいため、レオパルドントイと並んで飾っても映える。



▲マーベラ中心に、専用ディスプレイ台座に設けた状態。マーベラは専用スカンドループを使用する。

PROJECT OF

GX-33

ダイアモンドカーボンを付ける際は、
可動タイプの腕を装着する。



▶頭中の車ぐらみと交換用プロップ。両方のイメージからフォルムが決定された。ハの手立ちからノックディングポーズまで、可動人形として十分な可動範囲を持つ。

ホビニカ スパイダーマシンGP-7

ホビニカ仕様となるスパイダーマシンGP-7。実車プロップに近い車体の曲線美を再現するために、フィルムや戦闘に関しては十分に検討された上で正式決定が為された。



本アイテムは、マーベラーへの完全版上、バトルフィーバーJに匹敵する可動の新規開発で開発された。その解決策として、既に完成した非変型の可動タイプの二種を、好みに適応して替えるという大胆な方式を採用している。



▼両脚の可動を優先した結果、頭部全般に存在した強ひびきの運動はオミットされた。プロポーションもより完璧に近いものとなっている。



▼変形は基本的に結合面と共通。しかし頭部にハッチが設けられるなど、ディテールを握ったために細かい手筋は残されている。



▲頭部溝り、馬鹿の後ろ二つ
一の横納座が存在する。

▲結合金具ならではの複数個の接合部、内側に落納座が備わる。



GX-08MA

MAZINGER ANGELS Aphrodite A

マジンガーエンジェル アフロダイA

PROJECT OF GX-08MA

二機のオリジナル設定として生まれたO.P.M (Orbital Missile) システムとは、レディロボのため新たに作られた兵器群のこと。専用の長剣O.P.M-07 マジンガーブレードや、レディロボを象徴する武器・オッパイモードなどがある。



▲右から順に、O.P.M-03 スクリューカッター、O.P.M-01 アイアンカッター、O.P.M-02 ハンブルシャー。



◀O.P.MシステムにILパートナー1号の直樹トライマーしたものがいい。

▼足着き本体との连接が強いため武装も、マジンガーエンジェルの特徴の一つ。



▲O.P.M-03 イアンカッター。



▲O.P.M-01 アイアンカッター。



O.P.M-07 マジンガーブレード。操作盤面では、左のオッパイ内側から抜き出す。



▲イヤーのペイントは、原作漫画に登場するアニメ特撮のユニフォームに変更された。

◀O.P.Mシステムも取れる。専用のディスプレイ台座。



▶GX-08 アフロダイAとの比較。ヒールを履いている分、エンジェル版の方がわずかに背が高い。



GX-09MA

MAZINGER ANGELS Minerva X

マジンガーエンジェル ミネルバX

マジンガーエンジェル 講談社月刊マガジンZ '04年8月号～

ロックビットを持たない第4のエンジェルロボ。マリアが超能力で操縦する。基本的な仕様はGX-09 モヘルバXと共通だが、O.P.Mシステム・マジンガーブレードや、「デビルラン」の妖鳥シーラスを意識した巨大な飛行用バーツ「シーラスユニット」を装着可能。



頭部とバストバーツ、手首
を交換するだけで、印象が
一変。製作済みでは、シレ
ースモードに変更したミネ
ルバXは、エンジェルロボ
の中で唯一飛行可能な機
体となる。

翼にはボールプ
ointが付込
んでおり、翼を
可動する。



PROJECT OF GX-09MA

エンジェル4体の中で最後発のリリースとなったミネルバXには、
フォームチェンジのオマスクが搭載された。巨大な翼を持つライド
ユニット——シーラスユニットは、他を圧する大迫力のオプション
バーツと言えよう。



注目 背部とシレ
ースモードの制
作比較。フレー
部分がシーラス
モードのための
新規バージョン。



▲「シーラスユニット」装
着時のレビュー。



トヨタのディスハイム、
数量はO.P.M.07「マジン
ガーブレード」が付属する。

▲基本体は、バ
ブルを基調と
したアダルトな
カラーリング。オ
ーバーニーナッ
クスをイメージし
た大直径のペ
イントも、面白い。

▶レビュー。
ミネルバXの
柔らかい実像が、
女性らしさを強
調している。





GX-11MA

MAZINGER ANGELS Dianan A マジンガーエンジェル ダイアナA

PROJECT OF

GX-11MA

新開発システムの個性的かつおバカなデザインは、歴代ダイナプロキャラクターの武器やジャンボマシングー用の「ひみつ」がモチーフになっている。

◆O.P.M-01 スクリューグラッシュ
キー。元々はO.P.M-02 グレンダイナーのスクリューグラッシュキーだった。



マジンガーエンジェル 撮影社月刊マガジン2004年8月号

牧葉ひかるが搭乗するエンジェルロボ。カラーリング以外の基本的な仕様は、GX-11ダイアナAと共に、武装はオッパ!ミサイルの他に、O.P.Mシステムのマジンガーブレード、スクリューグラッシュキー、リキッドショーターが付属する。



ブルームクリックを
施したハーフリ
ングが、落とすとい
か印象を与える。



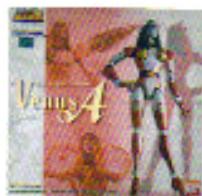
▲エンジンホルダが共通装備であるO.P.M-02 インパ
クターブレードも付属。



♪脚部に施されたデイ
ジタルO.P.M-02 リキド
ショーターは、手始めに
武器としても使用可能。



◆脚裏のO.P.M-01 スクリューグラッシュキー、女性
らしい芯のイメージが付加されている。



GX-12MA

MAZINGER ANGELS Venus

マジンガーエンジェル ビューナスA



レディロボの可動範囲は、組合せ構成シリーズでもトップクラスである。



▲迷彩モード時もO.P.M.-02「リフレッシャー」。

▲強襲モードにて、O.P.M.-03「ビューナスライナー」。



▲O.P.M.システムの装備部は、腕以外に脚へ装着することもできる。



イタミルーラー
はるかの宇宙を
駆けめぐらす
アーマーの魔力
が宿す
力。



O.P.M.-07「マジンガーブレード」は、キューティーハニの超・シルバーフルーレタイプのデザインである。



▲専用のディスプレイ台座が付属。



PROJECT OF GX-12MA

試作のメカ体基本体と、O.P.M.モードブレッシャーの原型。マジンガーニュールのカラーリングについては、メカ体の完成度の段階で具体的に検討した上で決定された。

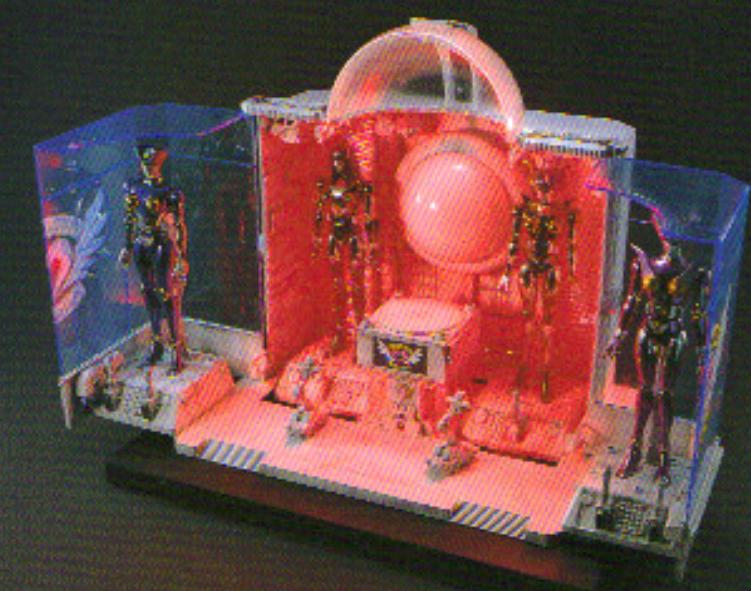
▲シグレートマジンガーから受け継がれた頭部ブレッシャー。

さて、ここでは野中博士の手製の「マジンガーエンジェル専用秘密基地」を紹介しよう。1974年に発売された大型キット「グレートマジンガーセンターハウス」の複数版をベースに、基本的には造形ハーフを全体に設置しただけの手軽改造品。博士が原本を丸々普やして完成させた、魂の力作だ! (電撃ホビーマガジン2005年2月号掲載)

MAZINGER ANGELS THE SECRET BASE

マジンガーエンジェル 秘密基地

03
第二次超合金魂改造計画



06	05	04	01
07	03	02	0

[04] 中央には、複数台台状のステージが存在。各段の大盤アートで飾りこたえ、メタットの機械が入り一層映える仕掛けとなっている。
 [05] 基地のドアを開けると、ドーナツ型内蔵が現れる。運用バーチカル100円ショップで購入した木材などで作られたとはとても見えない。
 [06] 壁と上部のドアを閉じれば、既に完全シャットアウト(天)。正面のエンブレムはデカールではなく、カラー印刷した普通紙を両面テープで貼り付けてある。
 [07] 室には、マシンガーブルード用のマスクを飾り、フィスプレイ部分前方のDPMモニタ側付け面にも、フィルムマップが貼った。

[08] 中央ステージの東西と南北には、100円ショップで購入した光セティード総計50個(1×5個)が設置されている。基底内部の軸曲げ、スケーリングなどのコトロリーパネルも自分で作成。されており、タオルオードの使い方もベストマッチ!

[09] フィスプレイ台座は商品什器のものやペイントし、両手に手を組んでいる。左元はミニアーマー、ノーバルガントムに付属する手枷をリペイントして配置。
 [10] まるでバトルを中心としたマシンガーベンチャルが登場。これだけのもので40時間以上制作してしまったは……温めてクリーニング、磨かれて。



COLOR VARIATION

組合合体マジンガーエンジェルは、これまでに3体の限定アイテムがリリースされている。いずれも原作漫画にて登場したエンジェルロボの新フォームであり、カラーリングが大胆に変更されると共に新規造形の武器やパーツが付属。単なるリメイクの枠を超えた、魅力溢れるアイテムとなっている。

GX-09MAB

MAZINGER ANGELS Minerva X
Blue Mermaid Queen Of Water
マジンガーエンジェル ミネルバX
ブルーマーメイド・クイーン・オブ・ウォーター

ミネルバのプロトタイプ。原作漫画第16話に登場した。パワーはノーマルのミネルバXに勝るが操縦難度もかなり高く、扱いにくい體質。ノーマルとは異なり操縦者が乗り込んで動かす。シーラスモードにも変形可能。



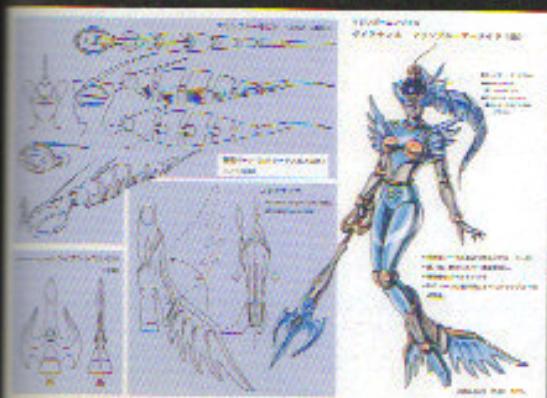
GX-11MAP

MAZINGER ANGELS

Blue Mermaid Queen Of Water
マジンガーエンジェル クイーン・オブ・ウォーター
ブルーマーメイド

マジンガZ'06年11月号掲載の原作にて、ダイアナAの胸中用フォーム「マリンブルーマーメイド」が登場!

デザインスケッチによると、人魚をモチーフとした新規造形バーフはクリア素材の多用を想定しているようだ。手に持つ武器は、トライアントミサイルを装備したエクシードスピア。合体するマリンブルーモビルの尾には、ポール関節が仕込まれており自在に可動する。ますます派手なマジンガーエンジェルの世界。ぜひ今後の展開に期待したい。



GX-08MAW

MAZINGER ANGELS Aphrodai A
Snow White Queen
マジンガーエンジェル アフロダイA
スノーホワイトバージョン

原作漫画第9話に登場した、アフロダイAのスノーホワイトバージョン。溶解液を使いつぶすため、全身に溶解液コーティング塗装を施している。胸には特徴O.P.M.ブレストハートマイヤーを装備。



◀スノーホワイトバージョンのディスプレイ台座が付属。



GX-12MAG

MAZINGER ANGELS Venus A
Queen Of Gold
マジンガーエンジェル ビューナA
クイーン・オブ・ゴールド

原作漫画第10話・第20話に登場した、ビューナAの新形態。古代ムー帝国の神器に反応し、姿が変化した。火の鳥が生み出す強力な熱線ブレストホルスバーンを始めとして、神羅的な攻撃技を数多く持つ。

トヨルアレススタッフは、手口に重じゆの力からすると謂われる、ムー帝國の神器。





WORLD OF HIGHTARGET CHOGOKIN

ハイターゲット超合金の世界

超合金ブランドとしてリリースされた、

ハイターゲット層に向けた

ハイクオリティなアイテムの数々——。

超合金の新たな躍動を感じて欲しい。



GD-99 AQUARION

DX超合金 創聖合体アクエリオン



ヒンジ上下に倒れて、ウイングを形成。マッカバーフを
ことで、ソーラーウィングが完成! 必殺モードに変化



ソーラーアクエリオン

ベクターマルがヘッド・ポジション、ベクターマーズが下半身、ベクタールナがブラックパックとなる、攻撃力重視の合体形態。玩具の全長は400ミリにも及ぶ。全身フルアクション。メイン武器の太陽剣を両手持ちすることも可能である。必殺技は月まで届く無限拳。



◆ベクターマシン
3枚、専用スライド、
剣3種、矢4種、ソ
ーラーウィングメ
タリバーブ、武器
用子音、各種固
定バーなどが付
属。スタンダード
には刀を装備することもで
ある。

創生のアクエリオン

95年4月4日～8月26日・全26話

超合金史上最多のパーツ数を誇る、超絶アイテム。アザインは監督も務める人気メカデザイナー河森正治。3機のメカが3種のロボットに変形・合体するコンセプトは、ゲッターロボへのオマージュといえる。

じゅたという。河森は自作の変形モデルを用いてバンダイ側にプレゼンを行った。その合体を完全再現した本アイテムは、ハイターゲットトイの新たな地平を切り拓いた野心作となった。



アクエリオンルナ

ベクタールナがヘッド・ポジション、ベクター・ソルが下半身、ベクターマーズがバックパックに変形して完成する合体形態。左腕部に大型の弓矢「ルナティックアーチュリー」を内蔵。光流手裏剣などの戦闘道具を使う。玩具には本編未登場の専用剣・月光剣が付属する。

▲バックパックのベクターマーズをたたむ。背面、巨大な響くる姿勢モード。左腕を組んでベクトルアーチュリーを離すだけ、「ルナティックアーチュリー」を射出する。つまがえる矢は「スパイダーブロー」。



アクエリオンマーズ

ベクターマーズがヘッド・ポジション、ベクタールナが下半身、ベクター・ソルがバックパックに変形した合体形態。他の形態と比べると足が長く、全長も最大となる。手持ち武器は爆雷劍。「ロングレンジセイバー」や「姫姫愛性劍（ゼロテュビアーグワディウス）」などの必殺技を持つ。

▲アクエリオンマーズの頭部が開閉される。後の2形態と異なり、頭部が開閉されている。



ベクターマーク



▲ベクタールナ、搭乗者の「感受性」や「洞察力」を高める特性を持つ。

▲ベクターマーズ、搭乗者の「知力」や「思考力」を強調する。

▲主人公であるベクターマーク、搭乗者の「氣」や「精神力」を強調する。



GE-01 AQUARION

DX超合金 強攻型アクエリオン

創型のアクエリオン 05年4月4日～8月26日・全26話

アクエリオンの量産タイプ。カラーリングや頭部の形状などが異なり、武装も変更された「強攻型」である。剣や矢の代わりに、巨大なインパクトカノンなどの兵装が追加。姿形は従来通りに3機のメカが3形態のロボットへと変形する他、河森正治が新合金の試作品をいじっている中で発見した2形態が加わった。玩具が持つボケンシルを感じさせる逸品である。



▲2Tの30mm
アサルトGUNホ
ードを手にした、
アクエリオンオガ。



▲インパクトカノンを装備した、
アクエリオンアルファイン
バクトルガン(飛行スクランドル付)
魔神。

▼アーマグドン形態、アク
エリオンオガが駆け出し、
六足歩行形態。



△エルタクは、両脚に特大なミサイルランチャーを装備。
△アクエリオンの超必殺技「無限拳」を演説するため、ボーナスピ
ーク付属。ソーフーアクエリオンの腕を伸ばすことができる。



△バルキリーのガワー
ク形態を彷彿とさせる、
アサルトウォーカー形態。



△ベクターアルфаⅡ唯一、追加装備を持た
ない。



△30mmアサルトGUNホードを備えるベク
トーオガ。



△強攻型ベクターフィン・ベンダー・アルファイン
バクトルガンによってシンセットが大きく変化した。武器
を取り、ベクターシールドの形態を取ることも可能。



GE-10 GAIKING

DX超合金 ガイキング LEGEND OF DAIKU-MARYU



▲ 大空魔龍ヘッドの
機動用バードバイト。



▶ バンブー・グリ
インド用の頭部、可
動脚と弁当。

▼ 新装備ガイキングア
ーツとガイキングシーコ
ルを備えた姿。アーツは柄を組んでシール
ド・吸着できる。



▶ ガイキングパンス
トルクターブロス
が搭載された。ガウ
ンターフィンも、機動
にはショットを活
用する。

◀ 頭から穿刺され
るゼクタージックは
別バーブで構成。



▲ 本から大空魔龍ヘッド
(パート3)、パート1、パート2、
パート構成に変更はない。

◀ ディスプレイ台座に、全
武装を陳列した姿。



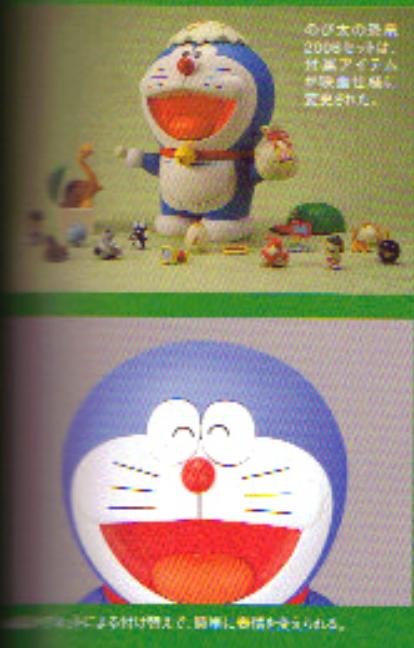
▶ フェイス・オ
ープンは動作と
は異なり、大型
魔導ヘッドのか
バーが外れる仕掛け。



◀ ガイキング本
体の後、各持
武器が組合せ
られる演出のア
クション。巨大な
ガイキングアッ
ラクスが目を惹く。

ガイキング LEGEND OF DAIKU-MARYU 05年11月11日～06年3月26日

『大空魔龍ガイキング』のリメイク作から、主役ロボット・ガイキングが登場。頭部モードをベースとしながら、細部にわたって大幅な変更が施され、似て非なるものとなり。GX-27 大空魔龍ガイキングと比較するのも一興である。最強形態ガイキングモードを再現するために、ガイキングと複合合体するバルキング＆ライキングの機能も備えたい。



TOP
HOME
ABOUT
CONTACT
SEARCH



▲カプセルに入らないサイズの装飾用アイテムも多く、ハイドローは高い。

▲超合金ガチャドームナントラもん(田舎風)との比較。

PROJECT OF GACHA GACHA DORAEMON

シップボを引っ張ると、因次元ボケットが開閉してカプセルが飛び出すという、ギミックの楽しさにこだわった本アイテム。ドウもんの特徴からカムフォルムを追求めよう。開閉部にもマグネットが使用されている。

GE-02 GACHA GACHA DORAEMON

ガチャガチャドーム



▲通常版パッケージ。
▲GE-02「のが太の恐竜2006ヒット」版。



GD-58 GD-59 GD-60 GD-74 GD-75 GD-97 ULTRA CHOGOKIN

ウルトラ超合金

「ウルトラ超合金」シリーズとして、全身フル可動のダイキャストモデルがリリース。替えの手首やオプションパーツなども豊富とあって、鏡中の名場面が再現可能。ソフビの怪獣シリーズともサイズを合わせてあり、かなり遊び心のあるアイテムに仕上がっている。

▲左から、ウルトラマンエクサル(ジッパー)、ウルトラマンバ、ウルトラゼン、ウルトラマン、乗ってきたりウルトラマン、ウルトラマン。



GD-98 MECHAGODZILLA 1975 メカゴジラ1975



「メカゴジラの逆襲」(75年)版のメカゴジラをリリース。迷彩替えバージョンにて、レーザー発射装置が頭部を再現できる。胸には「M G」と刻印。日本は劇中原寸大のスペーステクニウムのカケラも付属する。



GD-56 MECHAGODZILLA 1974 メカゴジラ1974



「ゴジラ対メカゴジラ」(74年)に登場した、初代メカゴジラを再現。頭部には、劇中のシーンを想起させる同軸ギミックを内蔵。バーニングモード替えにより、飛行モードも実現可能となっている。



▲GD-56 メカゴジラ1974
バーニングモード

▲メカゴジラ1974通常版。左側に「メカゴジラ」と書かれたアクリル板が付属する。

GD-57 MECHAGODZILLA 2004 メカゴジラ2004

「ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS」(03年)からの商品化。重武装型と高機動型に換装可能。胸部は開閉し、三連メーサーカニッケットが出現。右手のスパイフル・クローラーは迷彩替えで再現する。



メカゴジラ2004
通常版。03年「ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS」よりアレンジアップした。



▲通常版パッケージ。



▲GD-57M ブラックバージョン
パッケージ。



▲GD-57M メタルバージョン
パッケージ。

GD-45 MECHAGODZILLA 2003 メカゴジラ2003

「ゴジラ×メカゴジラ」(02年)より、3式機能ごとにメカゴジラを立体化。バックパックを切り離して重武装型から高機動型へと換装可能。胸部の3式絶対密度砲も再現する。



▲通常版パッケージ。



▲GD-45M ブラックバージョン
パッケージ。



▲メカゴジラ2003通常版。各機の変形は容易可搬となっている。



▲通常版パッケージ。

GE-09 GAMERA ガメラ



「小さき者たち～GAME RA～」(06年)版の新生ガメラ。手足を組み替えることで複数されるガメラを再現可能。特に幼生時の「トト」フィギュアを模し、赤い石が付属する。



GD-76 GIGAN 2005 ガイガーン2005

「ゴジラ FINAL WARS」(04年)に登場したサイボーグ怪獣を融合化。組み替えにより、飛行形態やプラッタ・チューイング装置のワリーアップタイプを再現できる。



▲ガイガーン2005通常版。意匠的に上位。凶暴なデザインが印象的。



▲通常版パッケージ。



▲GD-76M ブラックバージョン
パッケージ。



▲メタルバージョン
パッケージ。



▲メタルバージョン
パッケージ。



▲メタルバージョン
パッケージ。

第二次超合金魂計画発売記念

本書限定第二弾 超合金魂 応募者全員サービス

超合金魂 GX-28R

戦闘メカ ザブングル [リアルカラーバージョン]

ミサイルポッド



▲機動用の汎用ミサイルランチャー。四連装ミサイルポッドやランチャードライバー、ブローバイブなどよく使用していた。

●これまでに登場した、
汎用ミサイルポッド、
ランチャードライバー、
ブローバイブを上から見て
いる。右側は前回の
新規の新規カラーリング
仕様で登場する。

アルカラーに装い変えて、
史上限定行います
WMコンプリートとなりますか。さて……。



CAUTION!!

本書「超合金魂GX-28R 戦闘メカ ザブングル」
の点で通常商品とはセット内容が異なります。
下記。

【内容】
・フィル／3連バズーカ／4連装キャノン／9連
ミサイルポッド／交換用クイセイ／交換用千首／交換
用翼／予備アンテナ

【スペック】(彩色済み完成品)……レッグ／ホッグ
／3連装ミサイルポッド

以下のパーツはGX-28Rには付属しません。
・砲／スキー板／陸揚ケース／武装ディスプレイ
・ロープ／ホババー／フックカリ

本書の発売を記念して、またも史上限定品が登場!! 超合金魂GX-28 戦闘メカ ザブングルのリアルカラーバージョンだ!! これは本書P11でも紹介した岩田トシオ氏による作例をベースに仕様が決定。パステル調のカラーリングが特徴となる逸品なのだ。さらに新規造形・彩色済みのボーナスパーツは、初の立体化となる1/144小型ウォーカーマシン3種と、3連装ミサイルポッド。当時のプラモデルに加え、これからリリースされるウォーカーギャリアとドランを含めると、レッグ、ホッグ、ブランの3機で全ウォーカーマシンが同一スケールで揃う快挙となる!! これはもうコンプリートするしか!!

限定商品購入については
105ページをCHECK!!

ボーナスパーツ

小型ウォーカー
マシン×3

3連装
ミサイルポッド

付属!!

レッグ



▲ソルトのヒルトン・リガを模倣するヒルトン・カーマシン。

ホッグ

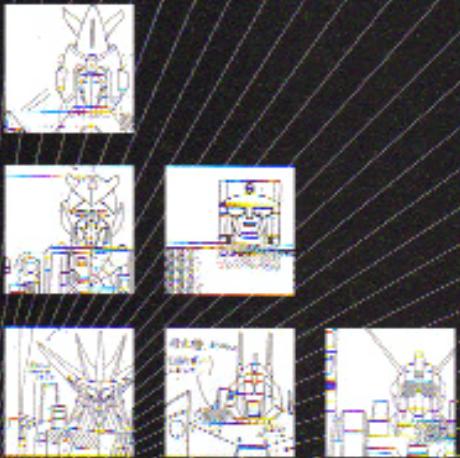


▲新規用小型バビューレーサーを模倣するヒューゴ・カーマシン。

ブラン



▲インセントのドームを模倣する無人小型ウォーカーマシン。



MAKING OF THE SOUL OF CHOGOKIN

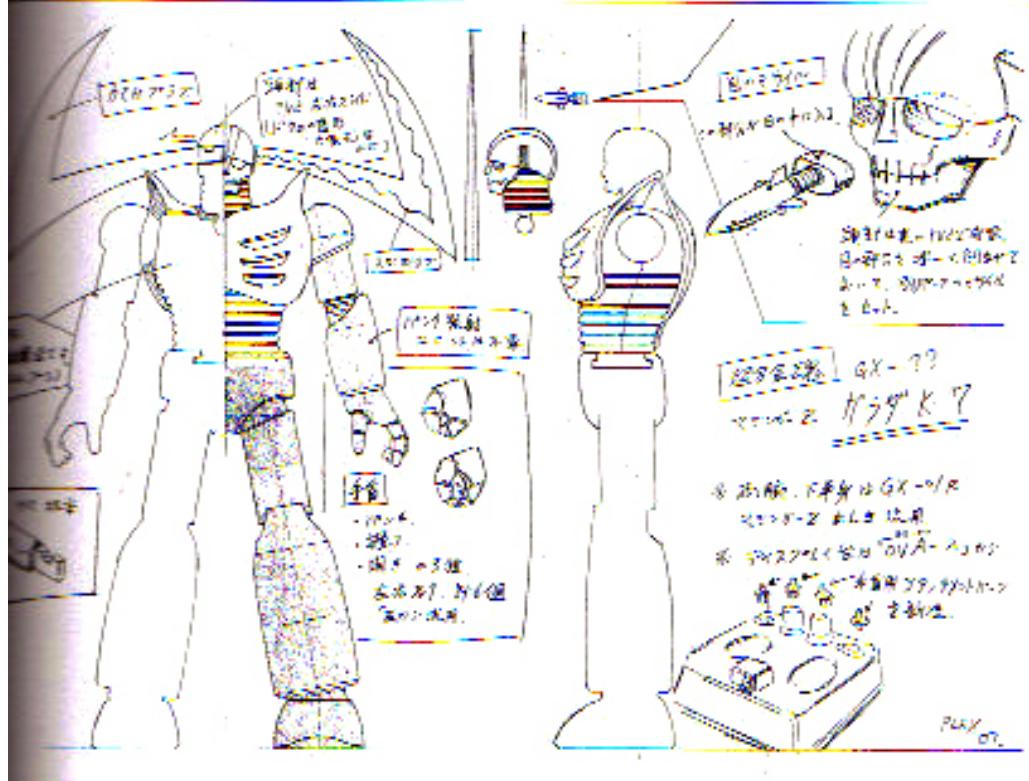
メイキング・オブ・超合金魂

超合金魂とは、いかにして世に出るものなのか。
人々の証言と内部資料をもとに、
プロダクトが生まれるさまを俯瞰してみよう。

独占公開!

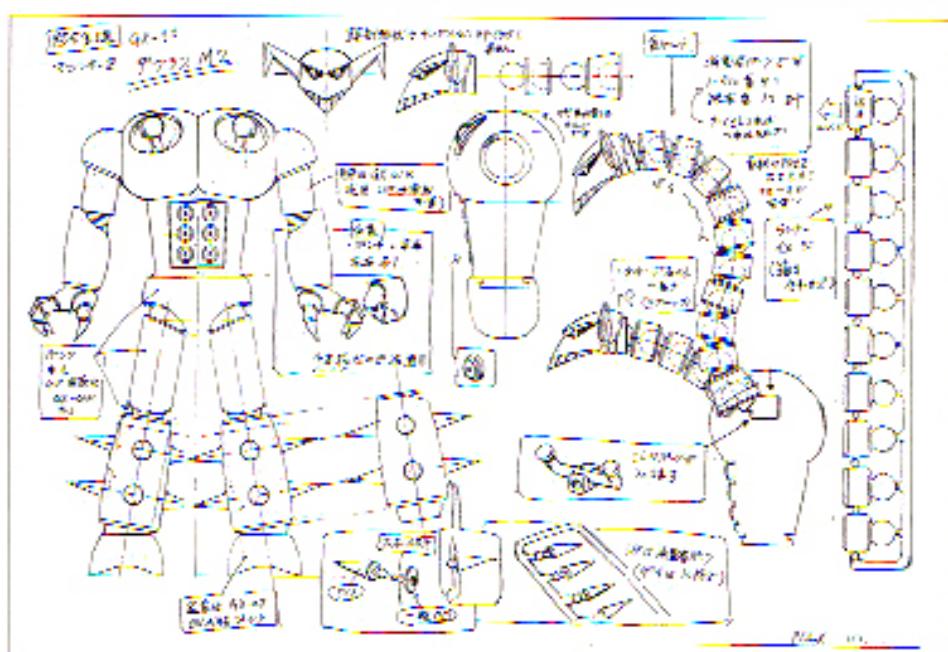
超合金魂原案スケッチ全集Ⅱ

超合金魂開発にあたって描かれた貴重なデザインスケッチの数々を、ここに公開！



GX-25 ガラダK7

超合金魂のフラッグシップである『マジンガーZ』より、シリーズ初となる敵ロボットの商品化。既存のGX-01RマジンガーZ(リニューアルバージョン)やレイドロボたちと並べて並ぶアイテムである。デザイン上マジンガーZとの共通項も多く、スケッチは新造パーツや新規ギミックについての記述がメインとなる。

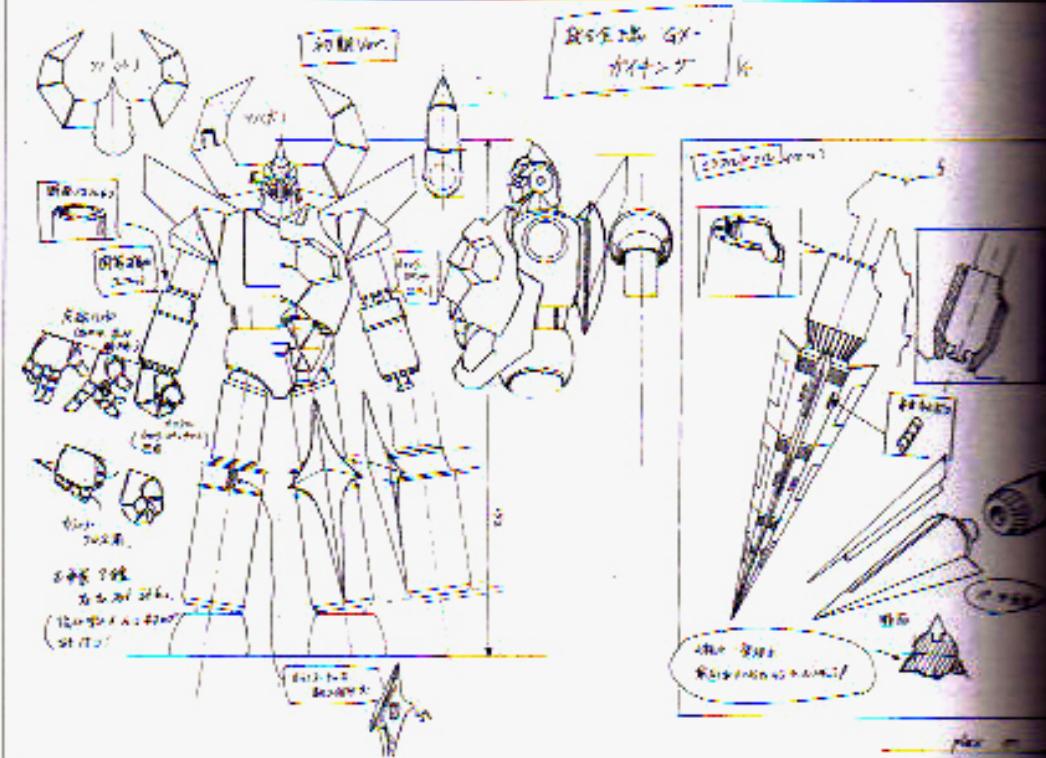


GX-26 ダプラスM2

野中陽氏が、機械娘の中でも特に好きだと語るダプラスM2。氏がGX-01をベースに改造したダプラスM2「超合金魂計画」に掲載されている。超合金魂の開発にあたっては、GX-01RとGX-07マジンガーZ(OVA版)のパーツを一部流用。特徴あるシルエットを形成する長い首は、ランナーパーツでの付属となった。

▲頭と脚部・もも・ひざ関節はGX-01Rから、足首はGX-07からの流用。首関節と脚のトゲはランナーに付いた状態で引換可能。ランナーに隠しては、「たくさん入れば、それはそれで」とコメントが書かれていた。(西村千鶴)

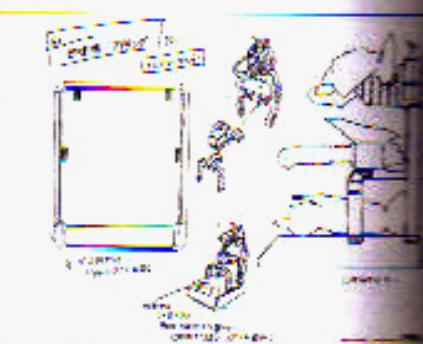
ト基本となる。初回バージョンのガイドラインは、どこかとんでも構成されないデザインが美しい。新規部品LL、関節可動アーチ、コウシングバー、ナニットの2種が確認できる。パンチ断面に織かいソメルのディテールが入るものも、このサイズならではある。クラウドリリーフに施された「表面を洗浄したアルミの文字が、アーチ内を覆う」との文字が、アーチ内を覆う。



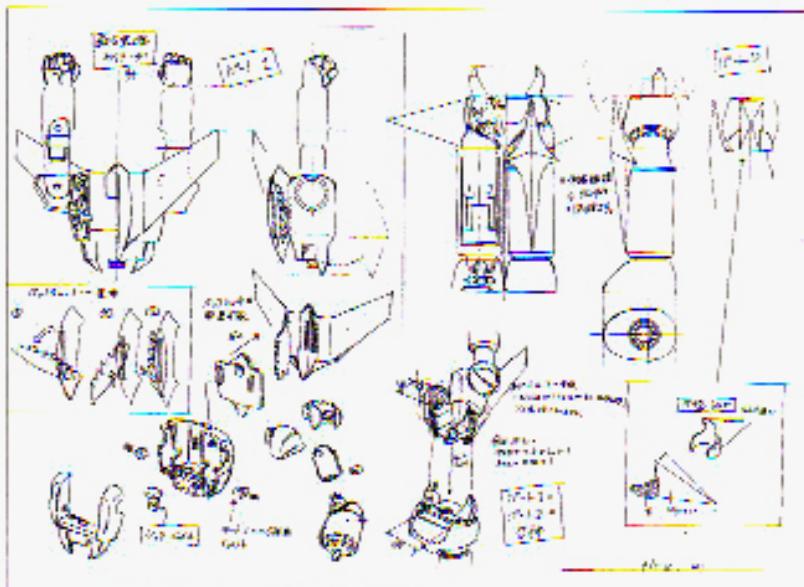
GX-27 大空魔竜ガイキング

すでにGX-05大空魔竜ガイキングの付属品として、ミニサイズながら細度の高い部品は存在していた。組合せ或スケンダードサイズで製品化される今回では、GX-05版の構造を踏襲えた上で、さらなる改良を加えた決定版を目指した。前回サイズの縮小されたディテールやマークを再現。強化型への換装方法も、まったく新しいものとなる。

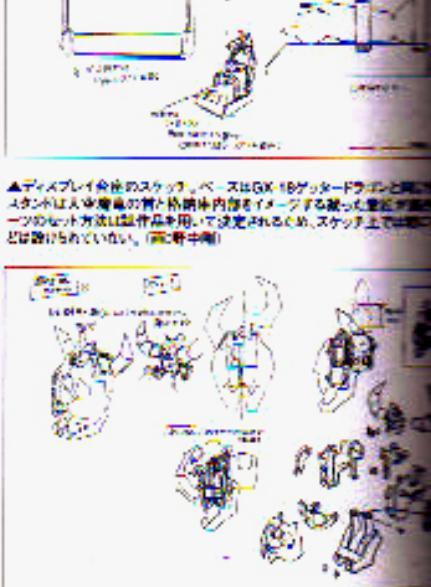
4種半完成する魔竜ガイキング。頭部にまとめて、パーキングアームが太くなれた脚と胸は、一体成型の開拓バージョンを複数の脚・頭に譲るということによって実現。これは「魔竜エアロボット」の改良法であった。フュースオーブンやマックを施す魔竜のスケッチには、フュースカバーの分離パターンも記される。(圖:野中剛)



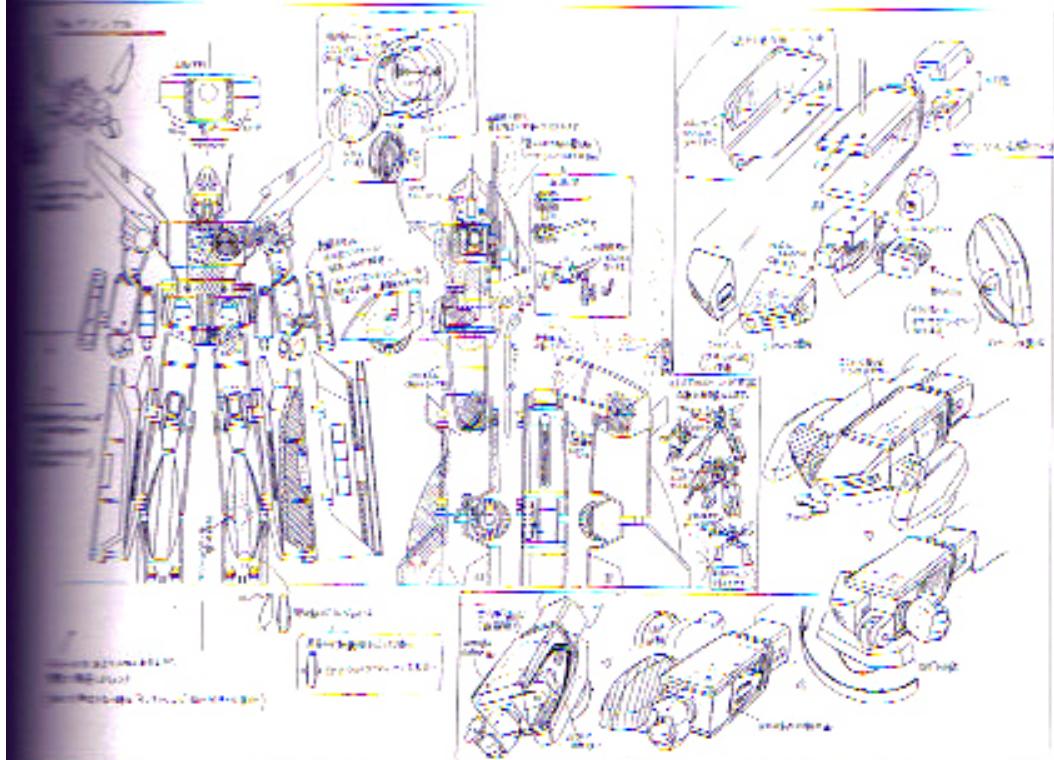
△ディスプレイ専用のスケッチベースはGX-16ゲッタードラゴンと同じ。スケッチは大空魔竜の首に格納庫内部をイメージする複数の壁面が一つのセット方法で試作品を用いて決定されるため、スケッチ上で壁面とは記載されていない。(圖:野中剛)



▲上半身を成すパート1と、下半身を成すパート2、パート1身中のバックショッターは、ノコギリ状の刃の位置を左右にわり両用する。壁面固定の際と、GX-05ゲッタードラゴン用いられた合体シングルによって固定される。グレンダイザーと同じ形の伸縮脚を有するパート2は、左側にワイヤーを取り付ける仕様。(圖:野中剛)



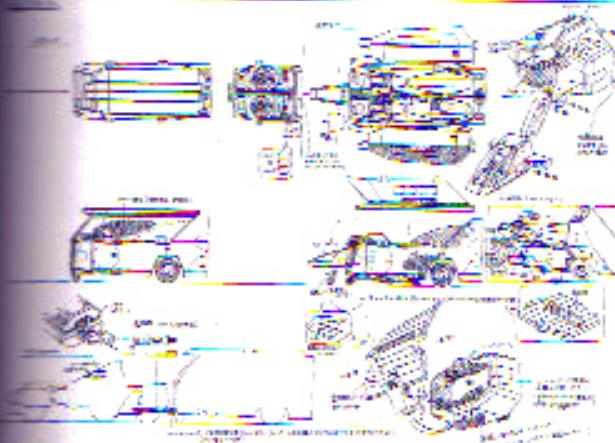
▲パート3、大空魔竜ヘッドの口は、上アコにダブルヒンジを備えた大空魔竜の頭を下げるごとに運動してガイキングの頭が出るギャップがある。これをフルに盛り込んでいくつする意図を感じられる。(圖:野中剛)



GX-28 | 戦闘メカ ザンブル

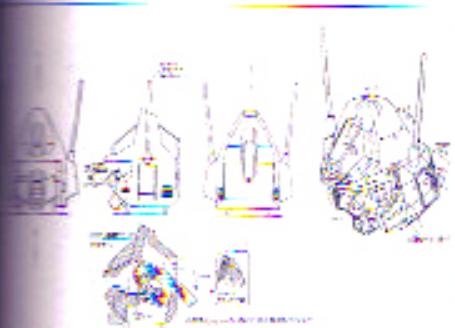
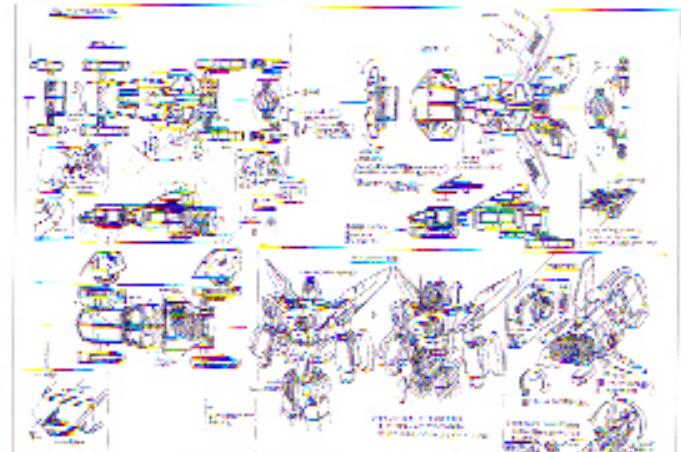
超合金魂のスタンダードサイズよりも小さい、プラモデルを意識した1/144サイズの変形モデル。リアルロボット時代のキャラクターにおける完全変形の実現と、プロポーションパーツの本格導入は、超合金魂が新たなフェーズへと突入したことを感じさせる。いかにして超合金魂的なものへと感とし込むか、後の「機スペック」にも通じる挑戦は、このザンブルから始まったともいえるだろう。

■オーブンシルバー1/144アラモードルのパッケージアート。頭部などに付いたガーニッシュやといつたシーリング所に付く白線に、各部には複数の可動軸が用意。サブザンブルへの構造も、既に想定されている。フレーム・ベース・キャリアをリザンブルの腰への変形も考慮。逆張りが一歩進んだ形の開けているという完全変形リザンブルへの想いが、スケッチ上にはいかなく付記されている。(右)加藤大介



二重構造に複数カットの上に収納するか、その方法が詰められたスライド。シャンパーを外すとまるで車両用の一枚でプロポーションを優先するには便利な手でも可いから、ユーザーの操作に合わせて調整は、ものの变形アイテムに受け継がれてゆく。腰関節はザンブル・スカート同様の構造を踏襲、同じくアルミヒートに力をあり、リザンブルとサンボ・エースには共通する事が多いのだろう。(右)加藤大介

▼腰内側面のフレーム・スカッパーには、オルナルを兼ねてヘッドライトやテールランプのフィルターが装着。ヘッドライトには取り分け可能となっていたふた。腰後部を見ると、腰体に収納される腰部アーマーと腰関節のクリアランスが確保。空港ドアや腰内フレーム・フレーム・ローパーの構造が腰部を押し上げる構造は、量産大河原邦男氏の意図。腰内側面ドアロック取扱説明でも想定されていた。(左)加藤大介



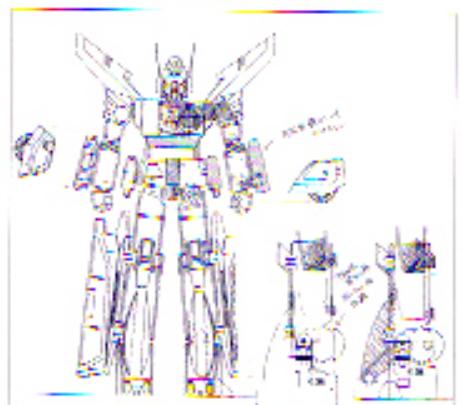
■ティアード構造の腰には、タッパー、腰関節スイッチのフィルターが腰の内側で取り外し可能(ハンドルの添え書きも)。下にはタッパー腰関節ラック裏も腰内部の腰関節が腰部されたドリップである。(右)加藤大介



■ティアード構造の腰には、タッパー、腰関節スイッチのフィルターが腰の内側で取り外し可能(ハンドルの添え書きも)。下にはタッパー腰関節ラック裏も腰内部の腰関節が腰部されたドリップである。(右)加藤大介

■付属品として、バスター用特殊カバー・メイクロ・ブロード仕様、実際に付けて撮影したかった第24弾に登場した武器庫が複数個ある。腰中のイヤーフレームを構成するため、腰側にいるよりこちらの腰部イヤーフレームが標準された。(右)加藤大介

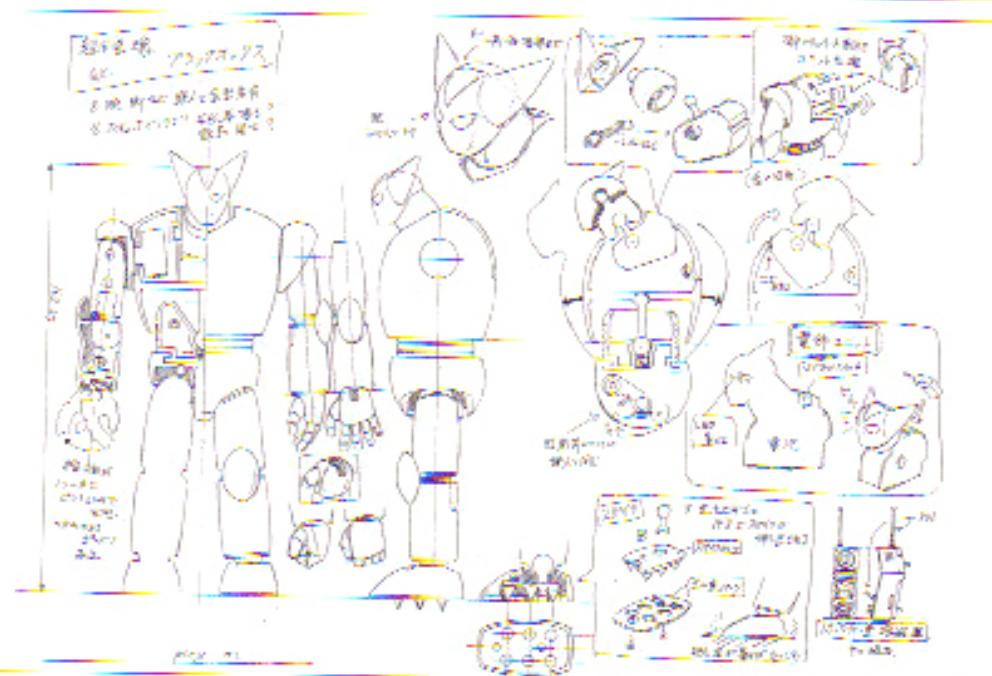
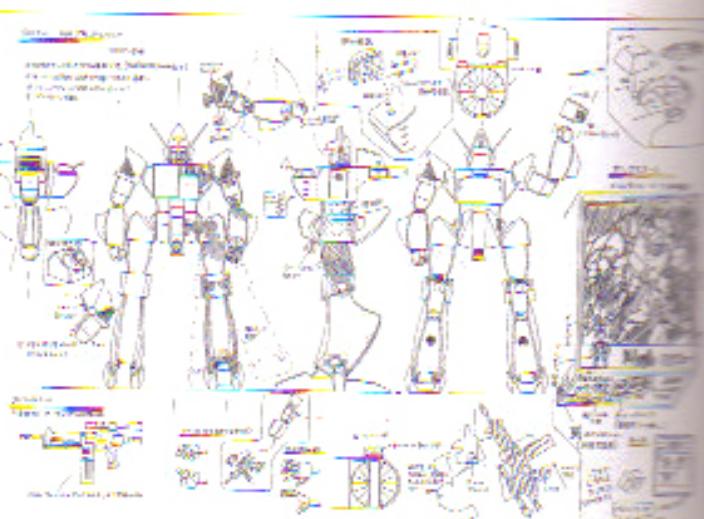
▼ザンブル搭載重量級パーツの腰用。第一・次腰内側・ノルマーナーの腰部として腰部が標準化された。同時に腰部用腰部用の各部が行われている。(左)三井宏司



▶「台場のそと」展の巡回作品です「台場価格500円位で」など2次元が想われたブラックカリのスケッチ。左に開いては、ボンスマートを始めたて「通しナンバー13番」「日パンダイロゴ(電蓄回マーク無い)」「日パンダイマーク」などと、黙示して「台場風」を語ったものとなっています。旅船書に入れる日本を、女神を思われる「1982.5」にするなど、アリスモ運営の運営が軽妙を感じられます。(面:井上伸大)

GX-29 ブラックオックス

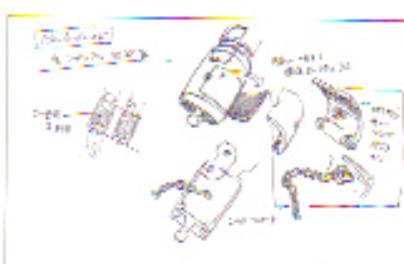
挿入に匹敵する知名度と人気を有するライバルロボット。サイズや関節の処理、マグネットを用いたLED発光などのギミックは、戦人と同じソーマットとなる。このスケッチが描かれた当時は、GX-24M(戦人28号(ブルースタッカーパーフェン))のリリースを想定していないため、運動ギミックの配載はない。オックスに付属するフィギュアについても、不乱争持上ではなく戦士像を付ける案も検討されていた。



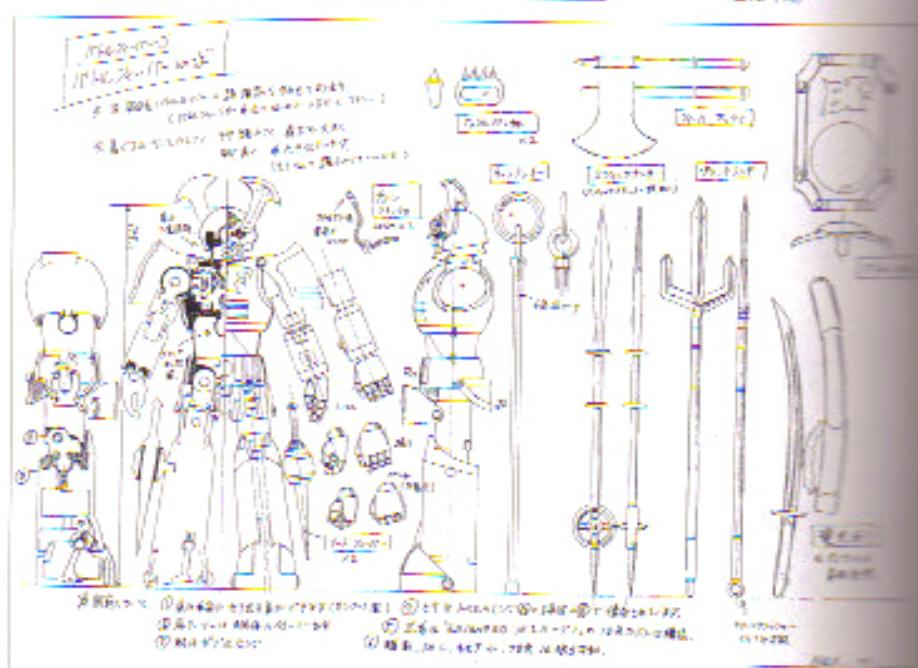
▲図や図4GX-24戦人28号と全く同じ。脚関節の構造も、戦人と同じ引き出し式構造を採用している。黒い可動発光のタイプと電磁コット付きのタイプを交換可能。手の奥に付くスライドは、スプリングによって脚を上げると押し出される。(面:井上伸大)

GX-30 バトルフィーバーロボ

特徴的となる組合企塊、着ぐるみをベースにしつつ、やや頭を小さく、肩アーマーを大きく、脚を長くするなど、見栄えのするプロポーションが選択された。独立可動する肩やもも、スカート、つま先のアーマーの重なり具合が、戦武者的なフォルムを強調。無変形アイテムであるかゆえに、特に可動と付属武器の充実に重点が置かれている。



▲頭部で描かれたチャ・ナンクルの収納方法を示すスケッチ。頭の正面を開拓することで、チャ・ナンクルの収納が可能とした。(面:井上伸大)



▼「小ルフィーバー」の構造。これはそのままに、頭部の構造をそのままに構成することによって、アーマーとしての効果を高めている。肩に仕込まれた複数の関節や、肘のダブルヒンジ、腰のジンジン式開閉装置などを、各開閉部の位置が示されている。(面:井上伸大)